

令和 7 年 度

工事番号 平 土 第 24 号

柏木町唐竹橋橋梁補修工事

平 川 市 沖 館 地 内

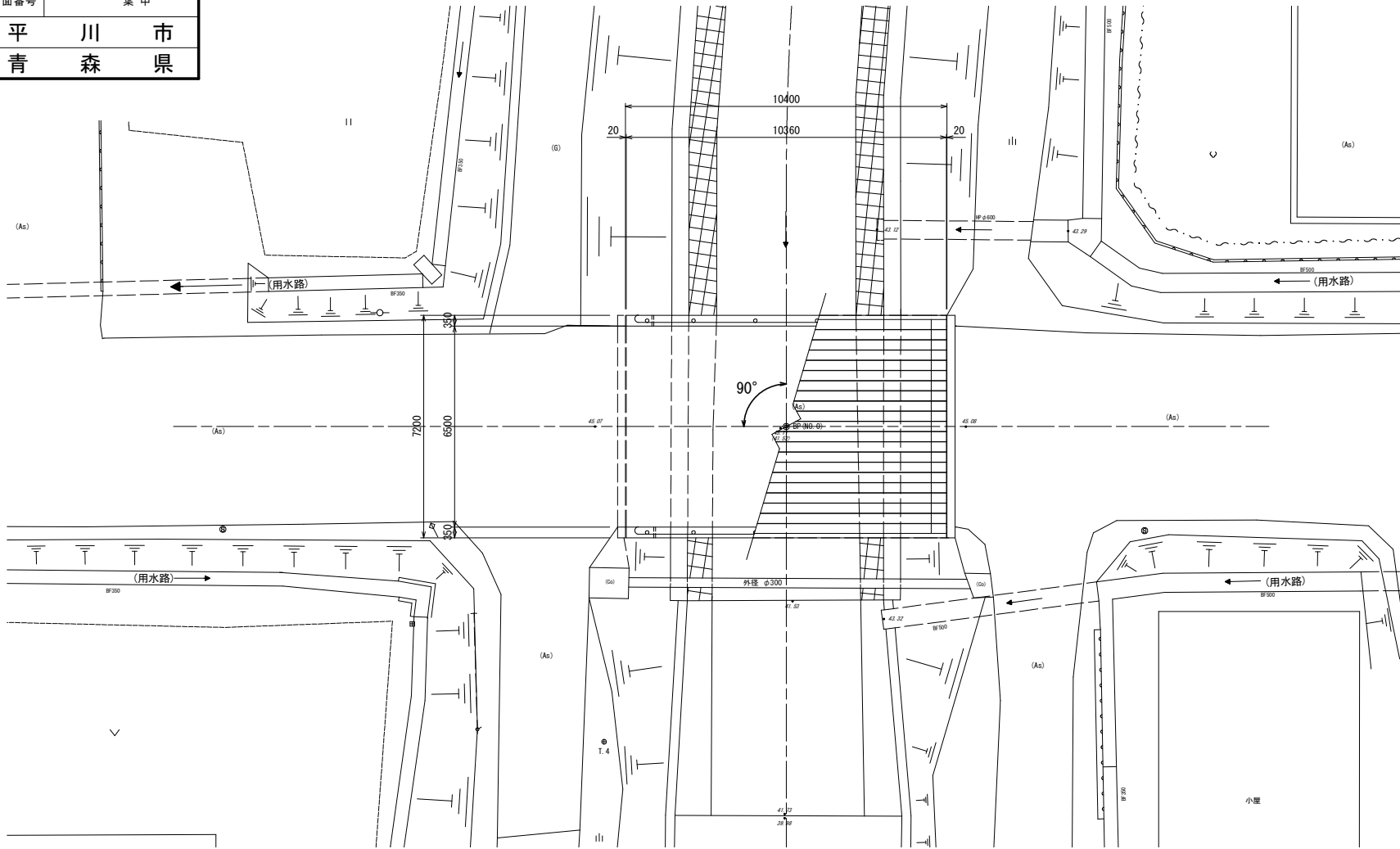
実 施 設 計 縮 小 図 面

平 川 市 建 設 部 建 設 課

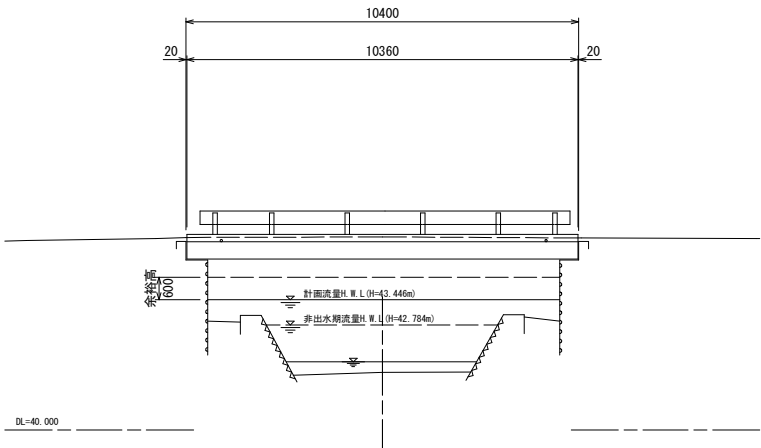
令和7年度			柏木町唐竹橋橋梁補修工事		
工事番号		第 号			
路線名		柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)			
施 工 所		平川市大字 沖館 地内			
橋 梁 一 般 図		縮 尺		各図記入	
図面番号		葉 中			
平		川		市	
青		森		県	

柏木町唐竹橋 橋梁一般図

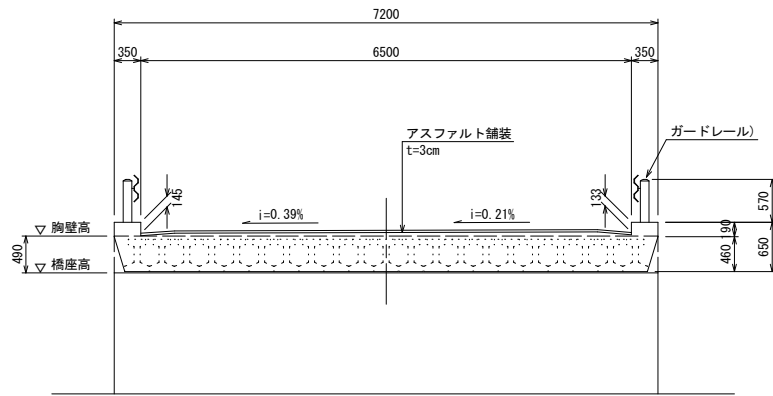
平面図 S=1:100



側面図 S=1:100



断面図 S=1:50

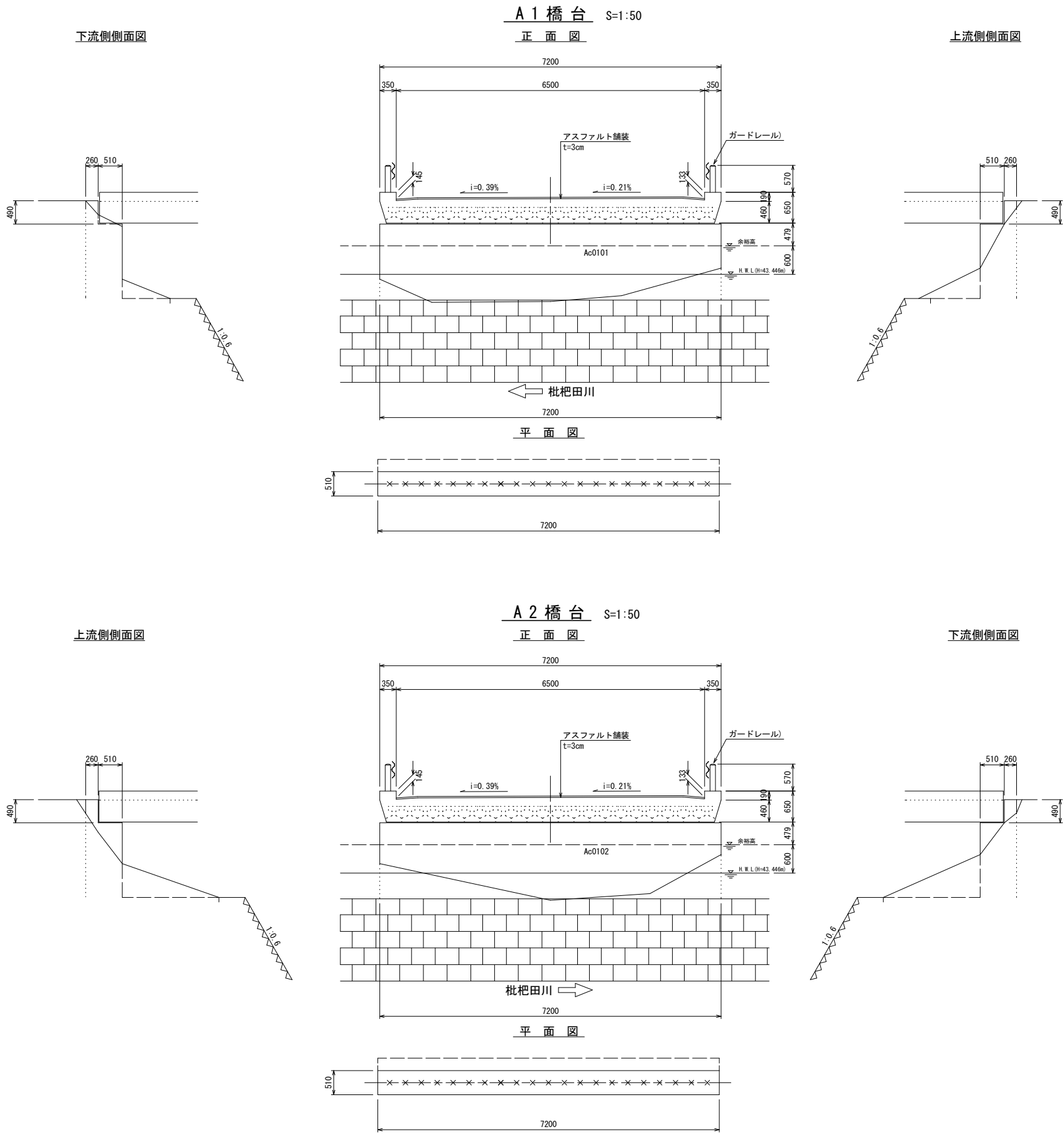


橋梁諸元

橋名	柏木町唐竹橋(かしわざみからたけばし)	
路線名	市道 柏木町唐竹線	
架橋条件	枇杷田川(管理者:青森県)	
竣工年	不 明	
設計活荷重	不 明	
斜 角	90°	
橋 長	L=10.40m	
桁 長	L=10.36m	
幅 員	全幅7.2m(有効幅員6.5m+地覆0.35m×2)	
上部構造	上部工形式	PC単純1桁橋
	床版工	-
	橋面舗装	アスファルト舗装
	防護柵	ガードレール
	伸縮装置	伸縮目地材
下部構造	支 承	A1:伸縮目地材、A2:伸縮目地材
	形 軀 体	逆T式橋台
	式 基 礎	不 明
	支持地盤	A1 -
		A2 -
適用基準		-

令和7年度 柏木町唐竹橋橋梁補修工事		
工事番号	第 号	
路線名 施 工 所	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)	
行 所	平川市大字 沖館 地内	
下部工一般図	縮尺	各図記入
図面番号	葉 中	
平 川 市		
青 森 県		

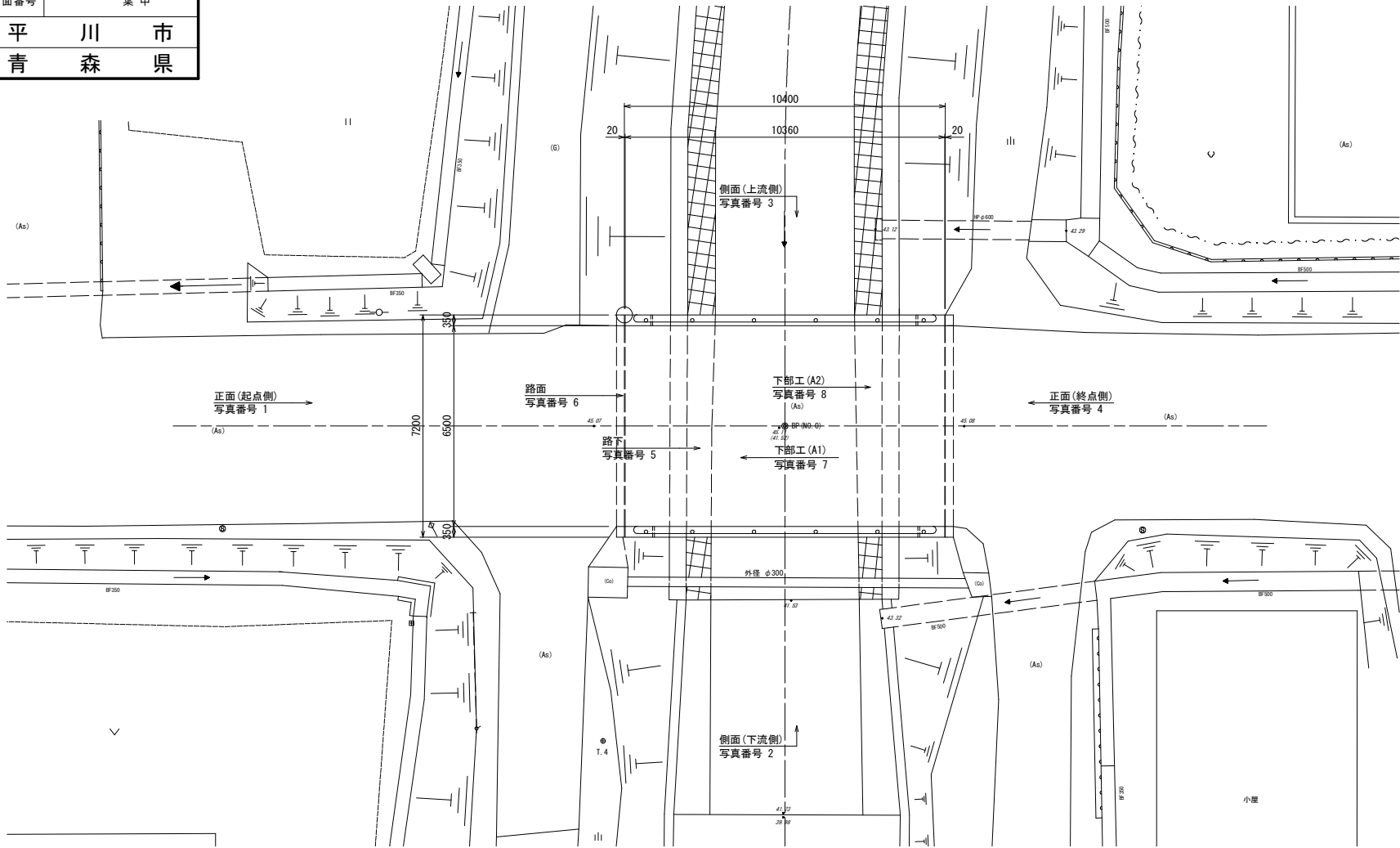
柏木町唐竹橋 下部工一般図



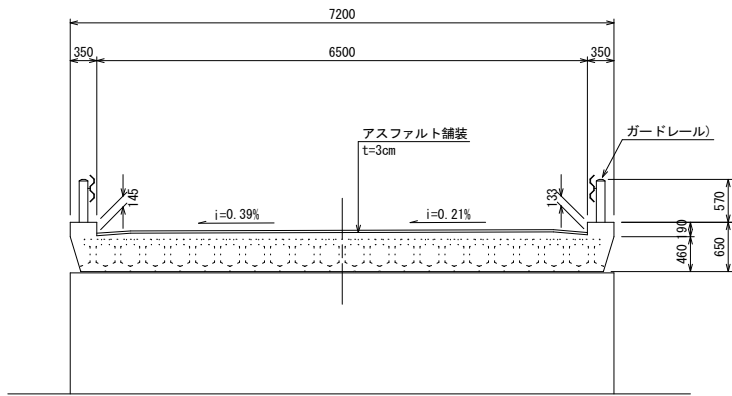
令和7年度			柏木町唐竹橋橋梁補修工事		
工事番号		第 号			
路線名 河川		柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)			
施設 行所		平川市大字 沖館 地内			
橋梁一般図		縮尺		各図記入	
図面番号		葉 中			
平		川		市	
青		森		県	

柏木町唐竹橋 橋梁一般図

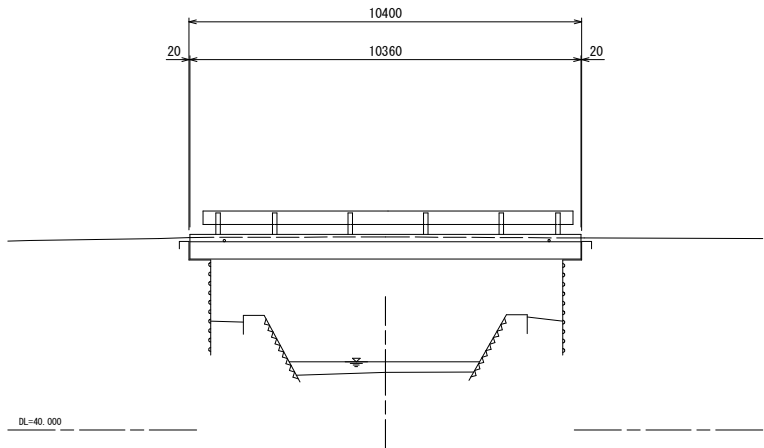
平面図 S=1:100



断面図 S=1:50



側面図 S=1:100



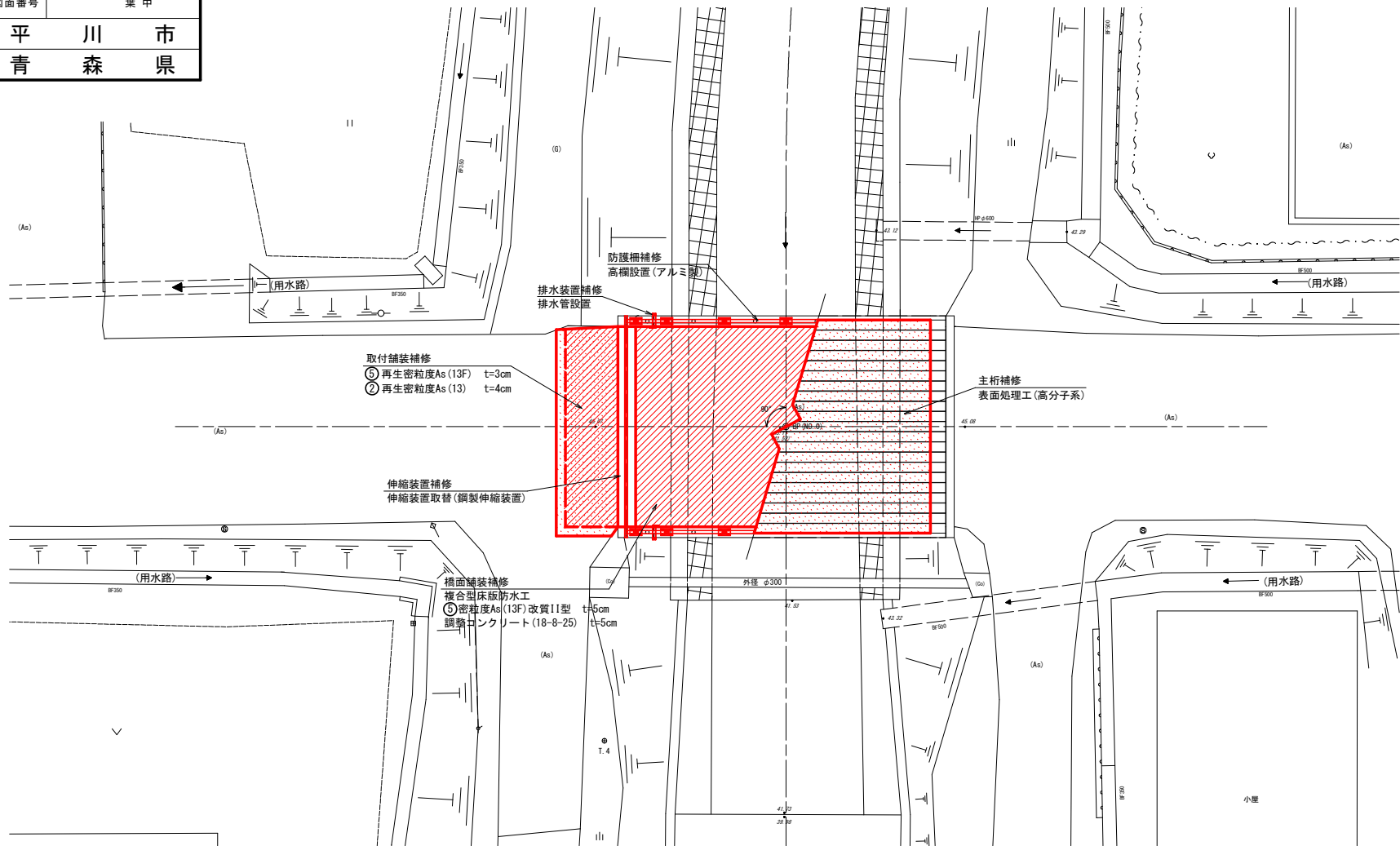
橋梁諸元

橋名	柏木町唐竹橋 (かしわざみからたけばし)	
路線名	市道 柏木町唐竹線	
架橋条件	枇杷田川(管理者:青森県)	
竣工年	不 明	
設計活荷重	不 明	
斜 角	90°	
橋 長	L=10.40m	
桁 長	L=10.36m	
幅 員	全幅7.2m(有効幅員6.5m+地覆0.35m×2)	
上部構造	上部工形式	PC単純1桁橋
	床版工	-
	橋面舗装	アスファルト舗装
	防護柵	ガードレール
	伸縮装置	伸縮目地材
下部構造	支 承	A1:伸縮目地材、A2:伸縮目地材
	形 軀 体	逆T式橋台
	式 基 礎	不明
	支持地盤	A1 - A2 -
適用基準		-

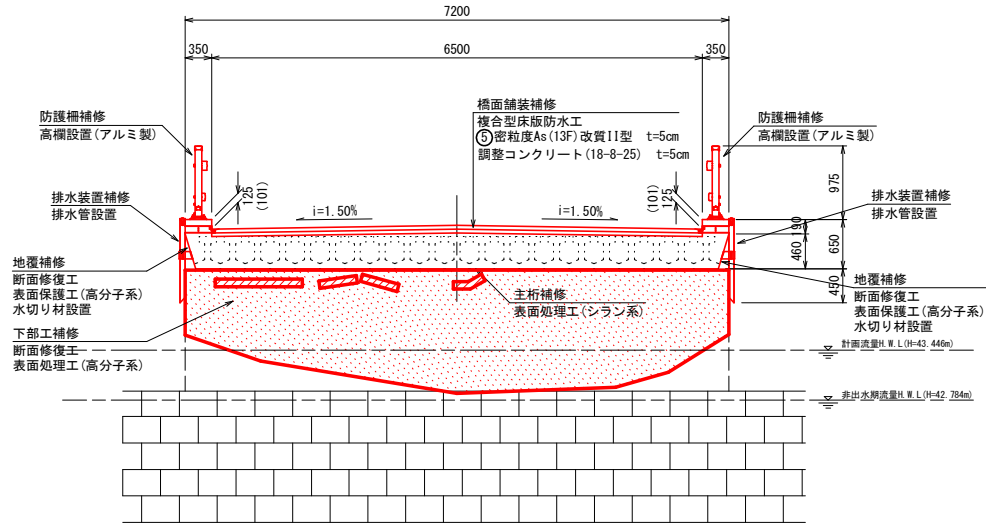
令和7年度 柏木町唐竹橋橋梁補修工事		
工事番号	第 号	
路線 河川	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)	
施設 行所	平川市大字 沖館 地内	
補修一般図	縮尺	各図記入
図面番号	葉 中	
平 川 市		
青 森 県		

柏木町唐竹橋 補修一般図

平面図 S=1:100

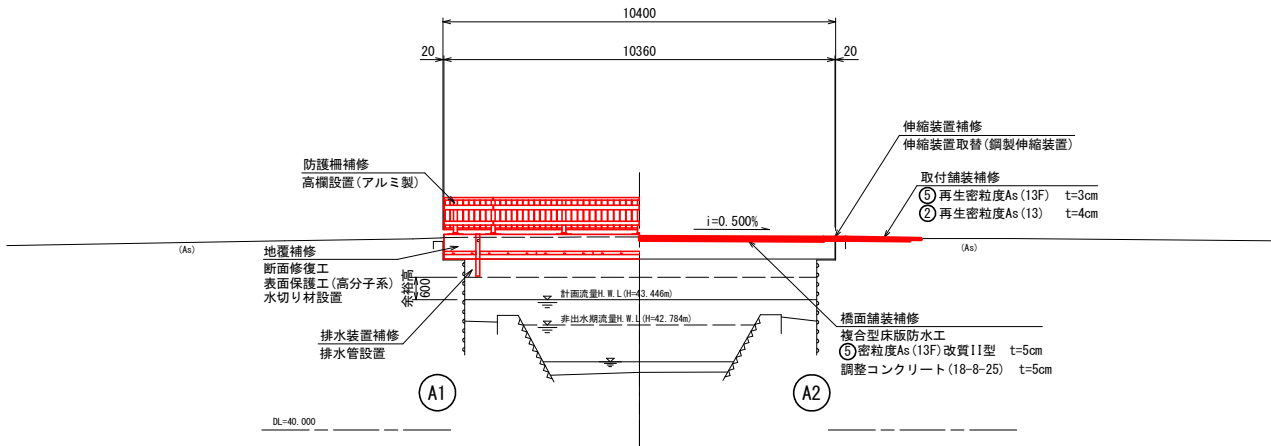


断面図 S=1:50



※地覆高はA1、A2側高さとし、( )は中央部を示す。

側面図 S=1:100



橋 梁 諸 元

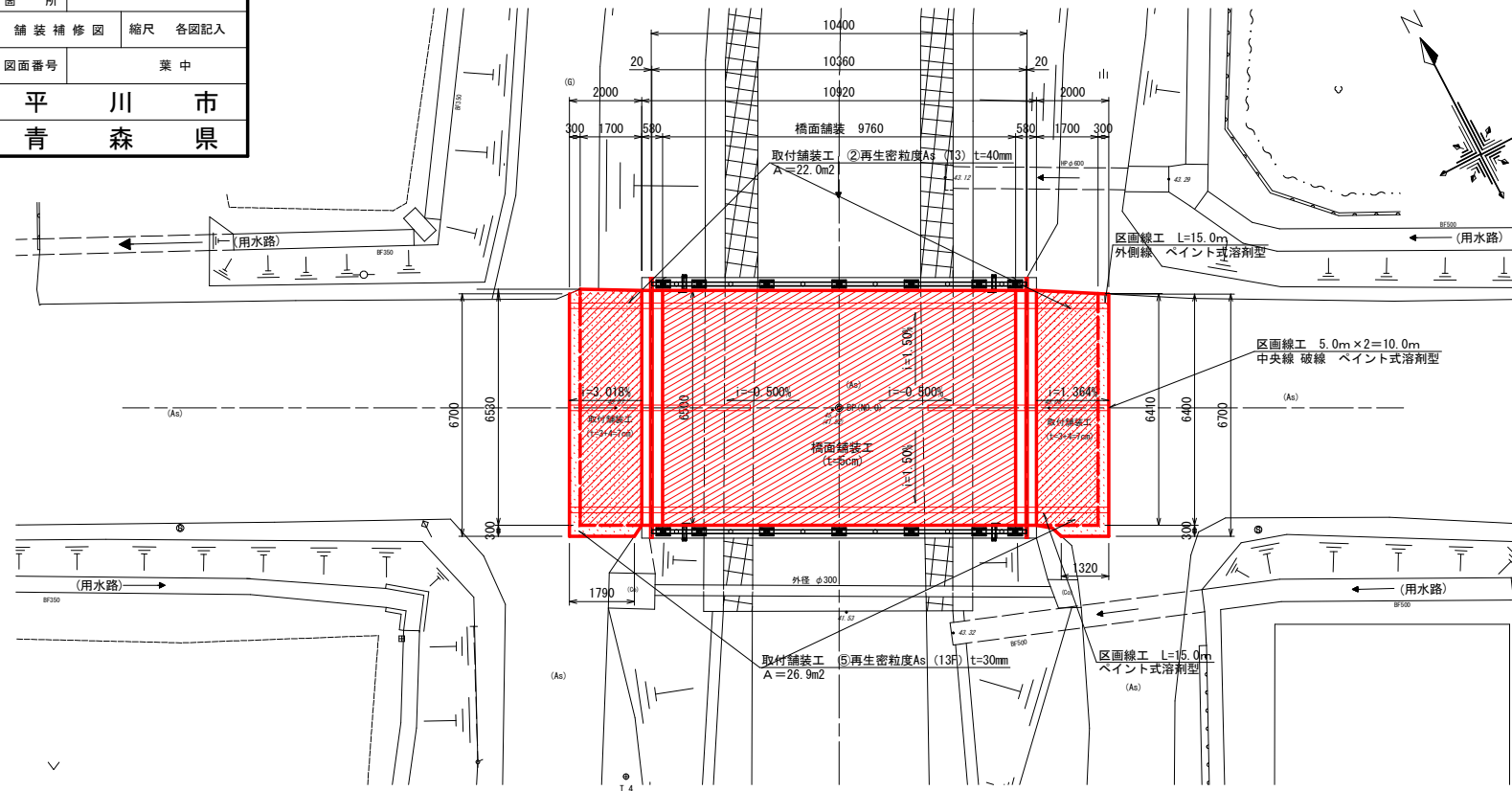
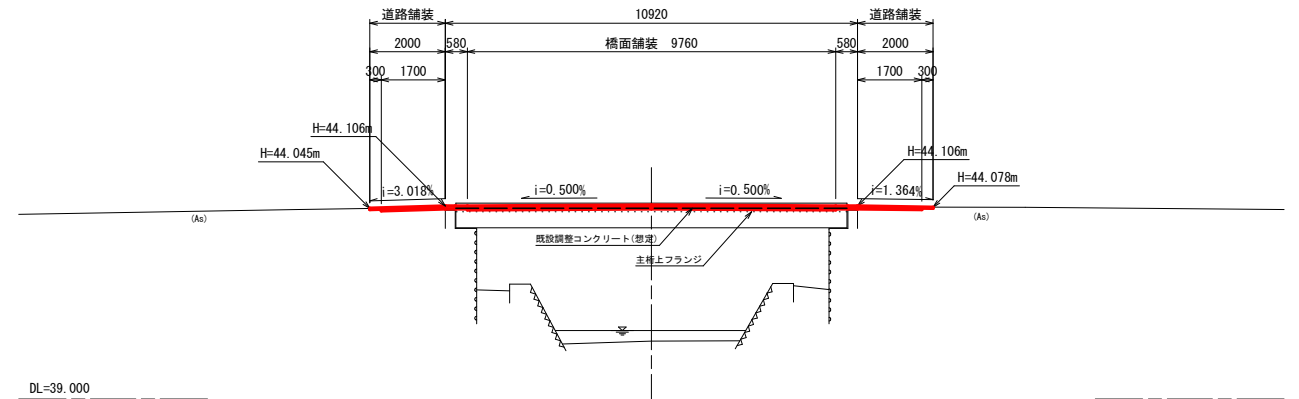
橋 名	柏木町唐竹橋 (かしわぎまちからたけばし)
路 線 名	市道 柏木町唐竹線
架 橋 条 件	枇杷田川(管理者：青森県)
竣 功 年	不 明
設計活荷重	不 明
斜 角	90°
橋 長	L=10.40m
桁 長	L=10.36m
幅 員	全幅7.2m(有効幅員6.5m+地覆0.35m×2)
上部工形式	PC単純1桁橋
床 版 工	-
橋 面 舗 装	アスファルト舗装
防 護 柵	ガードレール
伸 縮 装 置	伸縮目地材
支 承	A1：伸縮目地材、A2：伸縮目地材
形 体	逆T式橋台
式 基 礎	不明
支持地盤	A1 - A2 -
適用基準	-

柏 木 町 唐 竹 橋 補 修 対 策 一 覧 表			
対 策 箇 所		対 策 工 法	
上部工	橋面舗装	床版防水工	複合床版防水
		舗装打換え工	⑤密粒度As(13F)改質II型 t=5cm
	取付舗装	舗装打換え工	⑤再生密粒度As(13F) t=3cm ②再生密粒度As(13) t=4cm
		伸縮装置	伸縮装置取替(鋼製伸縮装置 非排水型)
	地 覆	断面修復工	ポリマーセメントモルタル
		表面処理工	高分子系含浸材塗布
		表面排水処理	水切り工設置(FRP製)
	防護柵	撤去、新設	橋梁用ビーム型防護柵新設(両側 全高H=1100)
下部工	排水装置	撤去、新設	目皿付き排水管(横引管+排水管 SUS製)
	主 桁	表面処理工	シラン系含浸材塗布
	コンクリート躯体	断面修復工	ポリマーセメントモルタル
		表面処理工	高分子系含浸材塗布

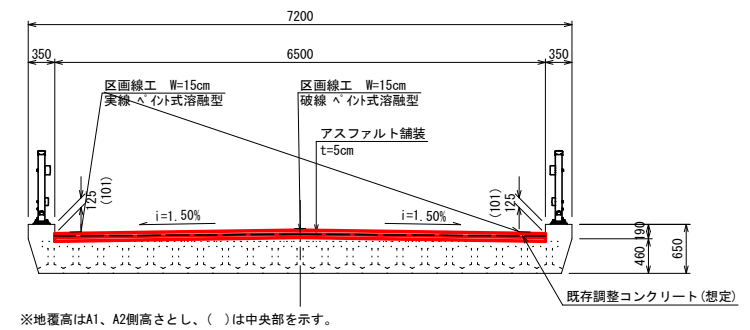
令和7年度	柏木町唐竹橋橋梁補修工事
工事番号	第 号
路線名	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)
施行所	平川市大字 沖館 地内
舗装補修図	縮尺 各図記入
図面番号	葉 中
平 川 市	
青 森 県	

## 柏木町唐竹橋 舗装補修図

舗装補修平面図 S=1:100

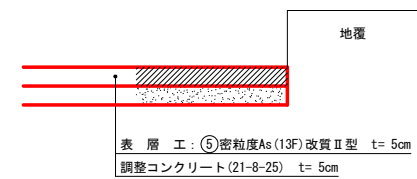
側面図 S=1:100  
(道路中心)

断面図 S=1:50



※地覆高はA1、A2側高さとし、( )は中央部を示す。

橋面舗装構成 S=1:10

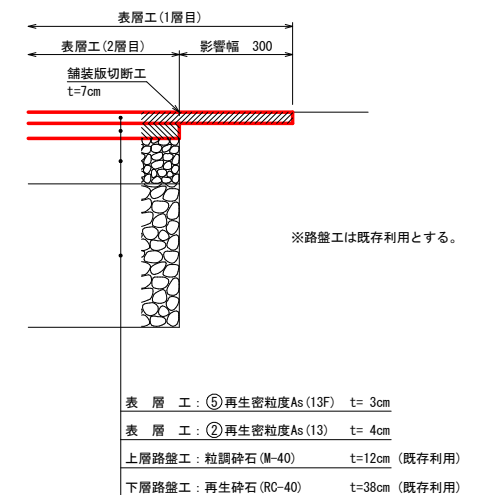


※橋長中央部などの既設調整コンクリートが不足する箇所については、既存部を取壊し、新たに調整コンクリートt=5cmを打設する。

・調整コンクリート切削厚さ

名 称	端部(地覆側)	中央部	平均厚
A1側	70mm	45mm	57.5mm
橋中央	43mm	18mm	30.5mm
A2側	65mm	40mm	52.5mm

道路舗装構成 S=1:10



※路盤工は既存利用とする。

舗装補修 数量表

名 称	仕様・規格	算 式	数 量	備 考
舗 装 打 替 え	⑤密粒度As(13F)改質II型 t=50mm	$6.50 \times 9.76 - (0.20 \times 0.05) \times 4$	63.4m <sup>2</sup>	
調整コンクリート	無筋コンクリート(21N-8-25)	$6.50 \times 9.76 \times 0.05$	3.172m <sup>3</sup>	
取 付 舗 装	⑤再生密粒度As(13F) t=30mm	CAD計測13.5 + CAD計測13.4	26.9m <sup>2</sup>	
〃	②再生密粒度As(13) t=40mm	$[(6.50+6.53) \times 1/2 \times 1.7] + [(6.5+6.41) \times 1/2 \times 1.7]$	22.0m <sup>2</sup>	
舗装切断工	推定 t=7cm(≦15cm以下)	$1.7 + 1.7 + 6.53 + 6.41$	16.3m	
舗装版破砕工	推定 t=7cm(≦15cm以下)	$[(6.50+6.53) \times 1/2 \times 1.7] + [(6.5+6.41) \times 1/2 \times 1.7]$	22.0m <sup>2</sup>	
舗装切削工	アスファルト舗装 全面切削 t=30mm	$9.76 \times 6.50$	63.4m <sup>2</sup>	
	アスファルト舗装 t=30mm W=300mm	CAD計測2.5 + CAD計測2.4	4.9m <sup>2</sup>	
コンクリート切削	平均厚 46.8mm	$6.5 \times 9.76$	63.4m <sup>2</sup>	

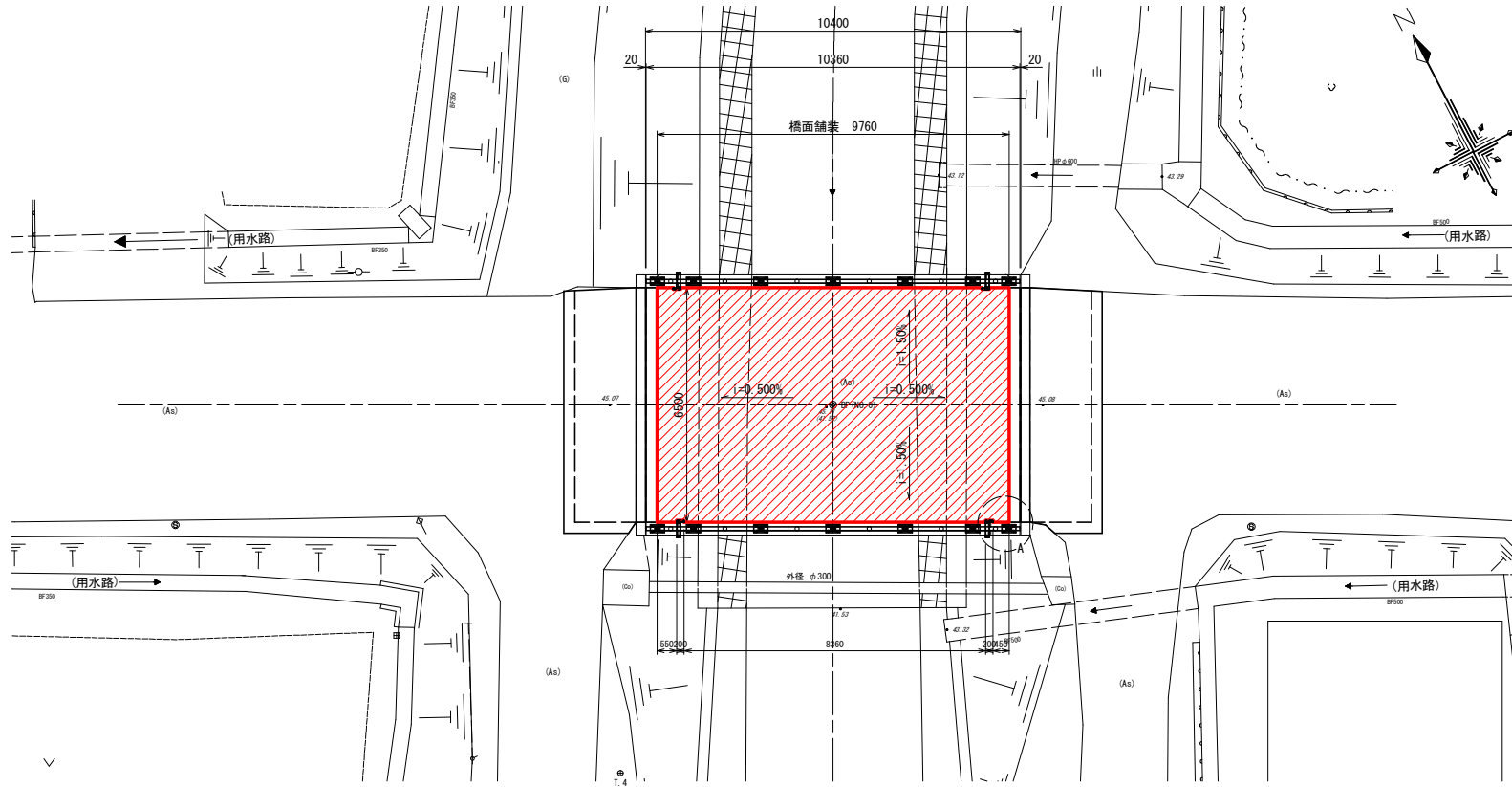
注記

- 1) 既設橋面舗装切削後の既設調整コンクリート取壊しについては、極力凹凸を少なくすること。
- 2) 調整コンクリート取壊し後、ひび割れ等脆弱部が確認できた場合、別途補修を検討すること。
- 3) 詳細寸法、現況勾配等は現地再検測の上決定すること。

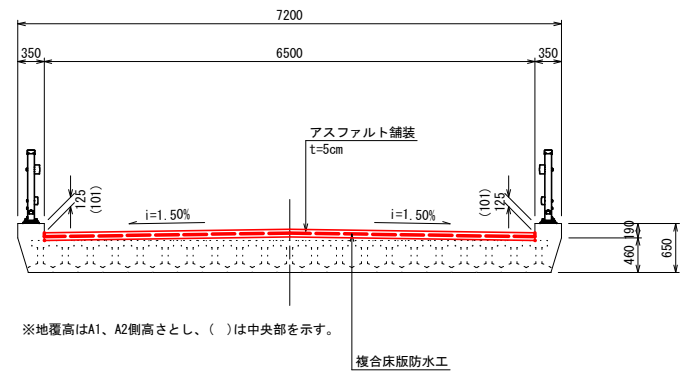
令和7年度 柏木町唐竹橋橋梁補修工事		
工事番号	第 号	
路線名 施 工 所	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)	
行 所	平川市大字 沖館 地内	
舗装補修図	縮尺	各図記入
図面番号	葉 中	
平 川 市		
青 森 県		

柏木町唐竹橋 床版防水工図

平面図 S=1:100



断面図 S=1:50



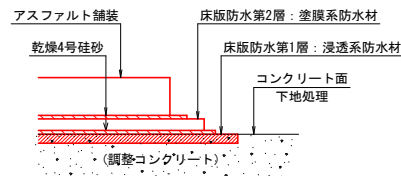
床版防水 数量表

名 称	仕様・規格	算 式	数 量	備 考
床版防水工	複合型防水層	$6.50 \times 9.76 - (0.2 \times 0.05) \times 4$	63.4m <sup>2</sup>	
成 型 目 地	t=5mm	$9.76 \times 2 - 0.2 \times 4$	18.7m	
導水管	合成樹脂製、φ15	$8.36 \times 2$	16.7m	
導水テープ	不織布、3cm×t3	$(0.45+0.2+0.35+0.3) \times 2 + (0.55+0.1+0.35+0.3) \times 2$	5.2m	

注記

- 導水テープ：端部0.45m(0.55m)+目皿0.2m+横引管0.35+排水管0.3m
- 補修工事に当たり、寸法等は再度現地計測を行って確認する事。

床版防水層概要図  
(複合床版防水)

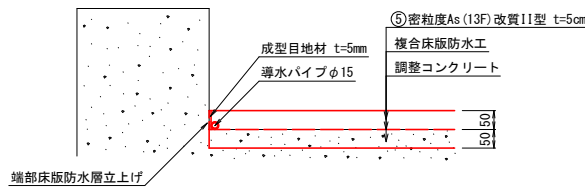


注記

- 路面切削は、既設床版を損傷しないよう留意すること。また、切削後、床版にひび割れ等の脆弱部が確認された場合は、適切に補修すること。
- 床版防水層の施工は降雨、強風時を避け、設置時の気温等、施工環境に配慮すること。また、床版の表面が十分に乾燥した状態で、下地処理を行うこと。

床版防水層端部詳細図 S=1:10

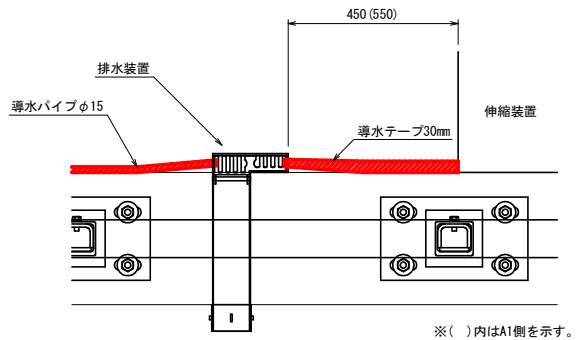
端部コンクリート



注記

- 防水層の端部は立ち上げを行い成型目地材を設置すること。
- 導水パイプは合成樹脂製とする。

A部拡大図 S=1:10



注記

- 導水管端部は排水装置に接続すること。
- 伸縮装置周辺の流水方向が逆勾配になる箇所は導水テープにより処理すること。

令和7年度 柏木町唐竹橋橋梁補修工事		
工事番号	第 号	
路線名 施 工 所	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)	
行 所	平川市大字 沖館 地内	
上部工補修図		縮尺 各図記入
図面番号	葉 中	
平 川 市		
青 森 県		

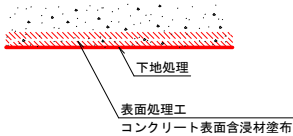
## 柏木町唐竹橋 上部工補修図

### 凡 例

表 示	損傷の種類
	ひびわれ
	漏水・滞水
	漏水・遊離石灰
	錆 汁
	ジャンカ
	剝離・欠損
	鉄筋露出
	補修跡
	その他

※ひび割れ幅を明記していない箇所は0.2mm未満である。

### 表面処理工



- 注記
- 含浸材塗布前に「下地処理」を十分に行い、付着している遊離石灰や草木、漏水跡等をすべて除去すること。
  - コンクリート表面含浸材は「シラン系含浸材」とする。
  - 下地処理後に幅0.2mm以上のひび割れなどの劣化部が確認できた場合は別途、補修工法を行う事。

#### 補修工凡例

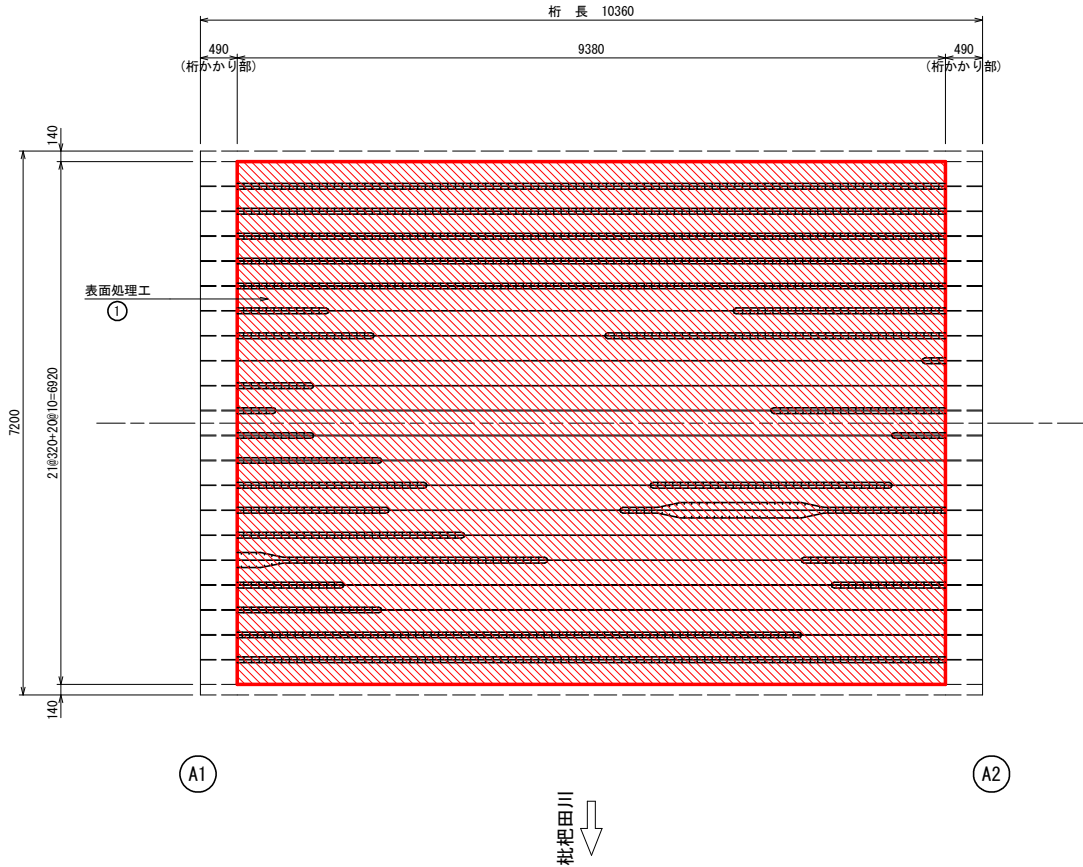
表 示	補 修 工 法
	表 面 処 理 工

#### 上部工補修 数量表

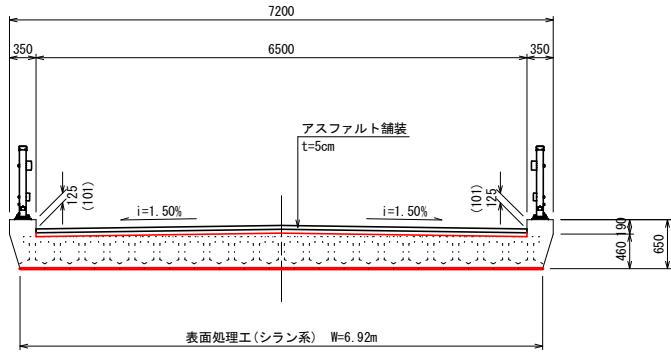
表 面 処 理 工		
番 号	面 積	
①	9.38×6.92	= 64.9m <sup>2</sup>
	ΣA=64.9m <sup>2</sup>	

- 注記
- 施工の際は、現地計測により確認する事。

### 路下（主桁下面） S=1:50



### 断 面 図 S=1:50



※地覆高はA1、A2側高さとし、（ ）は中央部を示す。



令和7年度 柏木町唐竹橋橋梁補修工事		
工事番号	第 号	
路線名 施 行 所	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)	
施 行 所	平川市大字 沖館 地内	
下部工補修図	縮尺	各図記入
図面番号	葉 中	
平 川 市		
青 森 県		

## 柏木町唐竹橋 下部工損傷図

### 凡 例

表 示	損傷の種類
	ひびわれ
	漏水・滞水
	漏水・遊離石灰
	錆 汁
	ジャンカ
	剝離・欠損
	鉄筋露出
	補修跡
	その他

※ひび割れ幅を明記していない箇所は0.2mm未満である。

### 下部工補修 数量表

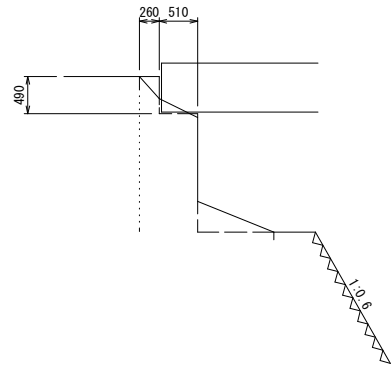
断 面 修 復 工		
番 号	体 積	
①	0.90×0.20×0.03= 0.005m3	
②	1.15×0.10×0.03= 0.003m3	
③	0.50×0.10×0.03= 0.002m3	
④	0.50×0.10×0.03= 0.002m3	
⑤	0.43×0.10×0.03= 0.001m3	
	ΣV= 0.013m3	

表 面 処 理 工		
番 号	面 積	
①	CAD計測による	= 10.6m2
②	CAD計測による	= 0.3m2
③	CAD計測による	= 9.9m2
④	CAD計測による	= 0.4m2
⑤	CAD計測による	= 0.3m2
		Σ A = 21.5m2

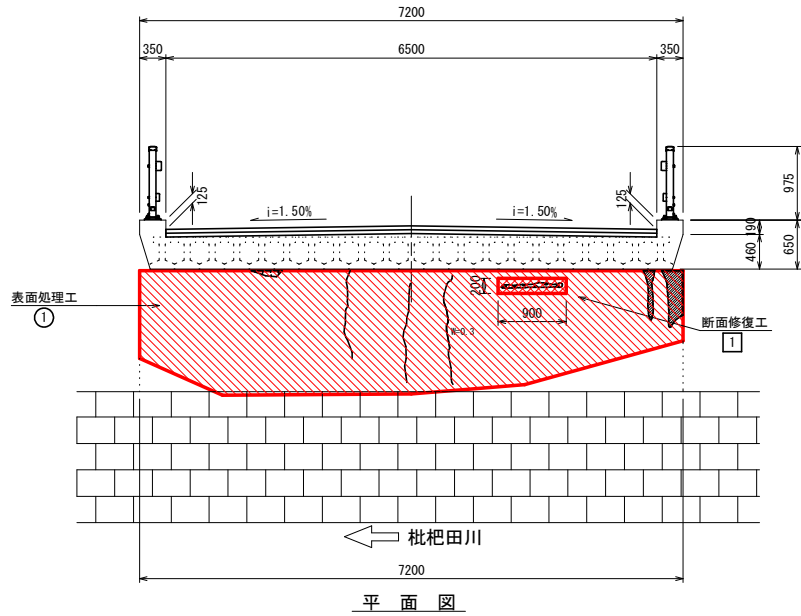
#### 注記

1) 施工の際は、現地計測により確認する事。

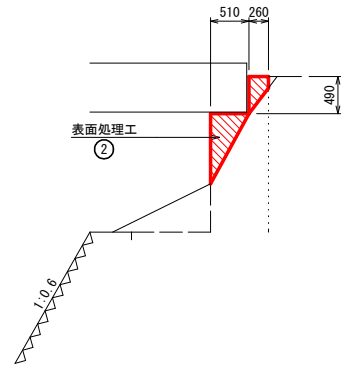
下流側側面図



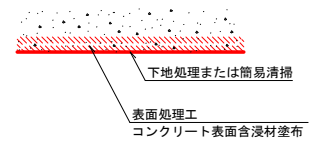
A 1 橋 台 S=1:50  
正 面 図



上流側側面図



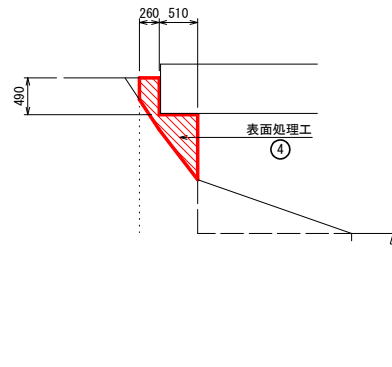
### 表面処理工



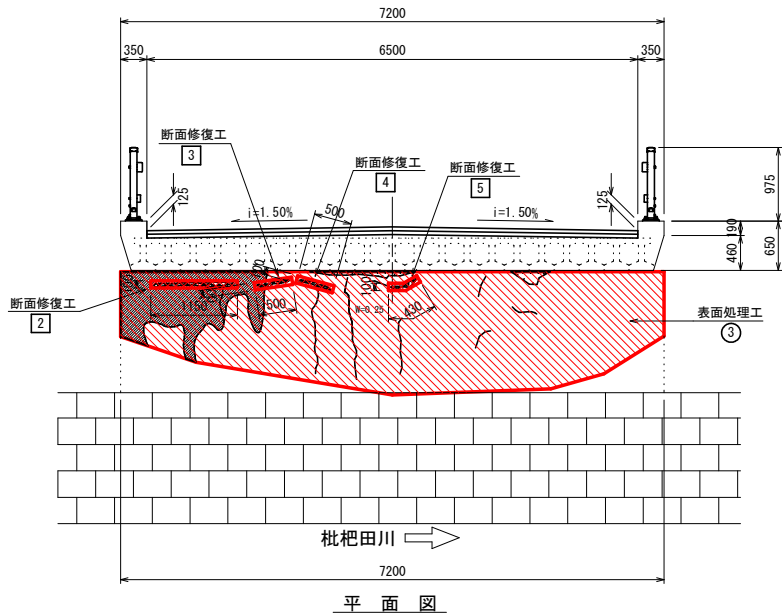
#### 注記

- 1) 含浸材塗布前に「下地処理」を十分に行い、付着している遊離石灰や草木、漏水跡等をすべて除去すること。
- 2) コンクリート表面含浸材は「高分子系含浸材」とする。
- 3) 0.2mm以上のひび割れについては局部的であることから、含浸材の厚塗りにて対応する。

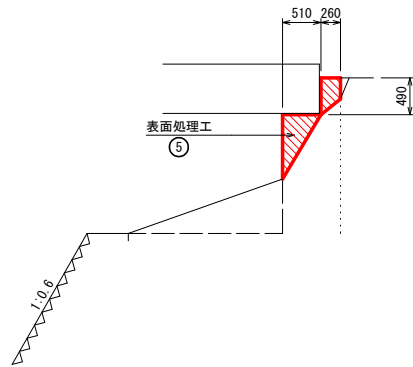
上流側側面図



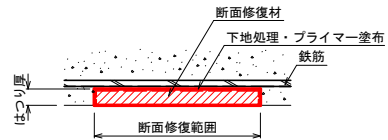
A 2 橋 台 S=1:50  
正 面 図



下流側側面図



### 断面修復工(左官工法)



#### 注記

- 1) 劣化部コンクリートのはつりは、健全部に損傷を与えないよう、カット一目地を入れて施工する事。
- 2) 断面修復材は「ポリマーセメントモルタル」とする。
- 3) 鉄筋の発錆が確認できた場合は裏側まではつり、防錆処理を施す事。

### 補修工凡例

表 示	補 修 工 法
	断 面 修 復 工
	表 面 処 理 工

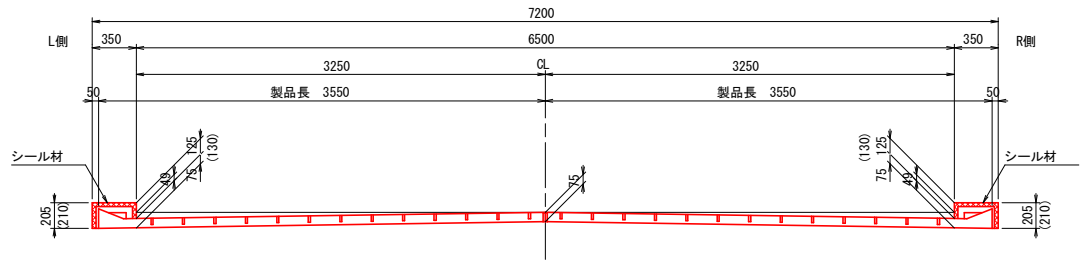
柏木町唐竹橋 伸縮装置補修図

令和7年度 柏木町唐竹橋橋梁補修工事		
工事番号	第 号	
路線名	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)	
施行所	平川市大字 沖館 地内	
伸縮装置補修図	縮尺	各図記入
図面番号	業 中	
平 川 市		
青 森 県		

横断面図

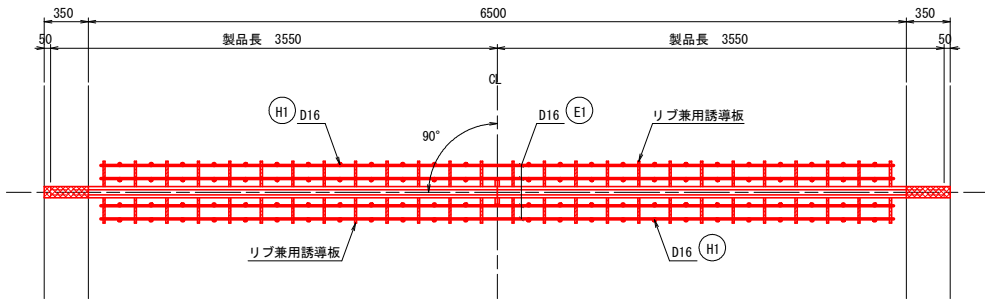
S=1:30

注: ( ) 内はA2部を示す。



平面図

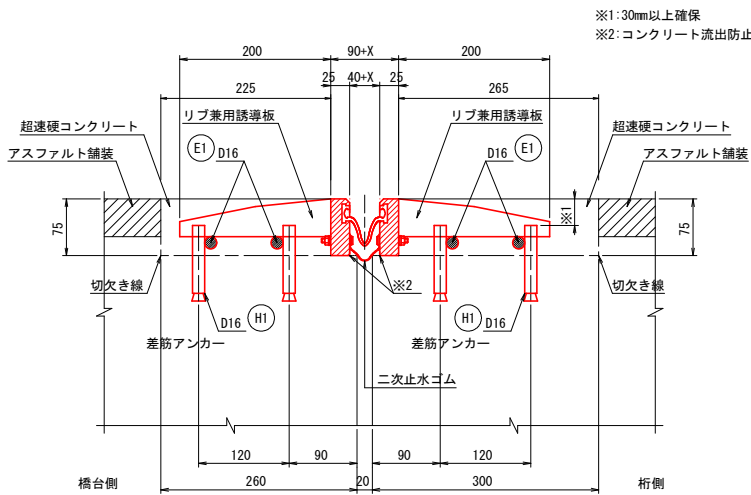
S=1:30



車道部 取付断面図

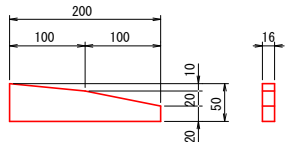
S=1:5

注1:Xの値はジョイント遊間設置表を参照のこと。

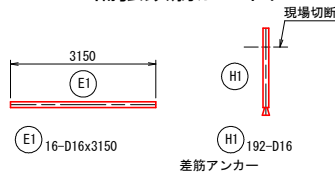


リブ兼用誘導板 詳細図

S=1:5



補強鉄筋加工図

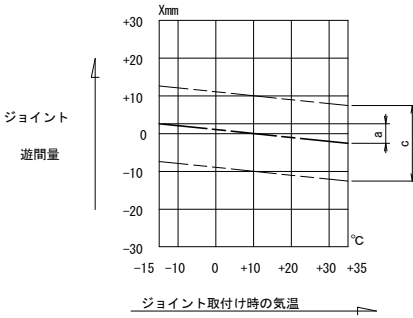


設計条件

橋梁条件	
温度範囲	-15℃~+35℃
標準温度	+10℃
橋長	10.400m
伸縮桁長	10.360m
伸縮移動量	
温度変化	5.2mm
余裕量	10.0mm
常時移動量	15.2mm
伸縮装置許容量	
鋼製ジョイント	
許容伸縮量	60mm
適応遊間	40mm

注1:伸縮装置は遊間を跨ぐものとする。

ジョイント遊間設置表



「ジョイント遊間設置表」解説

1:表は図中のXの値を示す。

2:a=温度変化

3:c=(適応遊間値-遊間値) または、

c=(伸縮装置伸縮量-常時伸縮量)

4:標準温度 +10℃ (H29道示 I 共通編8.10)

5:1℃当りの伸縮量=温度変化/全温度

6:現場設置時は現地の温度(気温)を確認し、

適切な設置幅を決定する事。

7:Xは標準温度時X=0mmとする。

8:Xの算出は次式による。

X=(標準温度-気温)×(温度変化/全温度)

伸縮装置材料表

(全数量)

型式	単尺	本数	長さ	適用	重量(1本当り)
鋼製ジョイント	3550	4	14200	車道部	125kg
TOTAL			14m200	—	—
リブ兼用誘導板		200x50x16t	104枚	1カ所 52枚	車道部重量に含む

補強鉄筋材料表

(全数量)

適用	記号	断面	単尺	単重	1本当重量	員数	重量	材質
E1	Φ	D16	3150	1.560	4.914	16	78.6	SD345
H1	〃	〃	—	—	—	192	—	差筋アンカー
TOTAL							78.6	kg

地覆部材料表

(全数量)

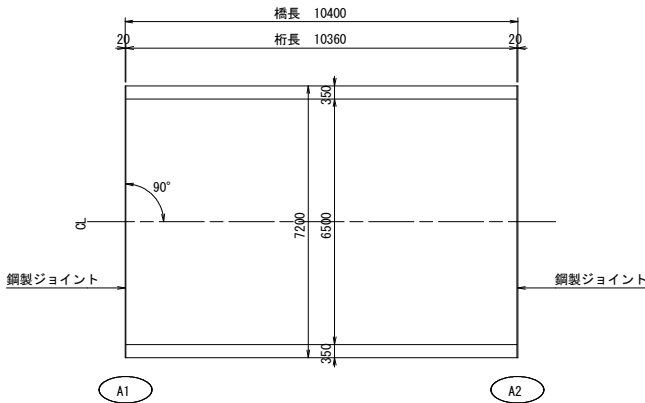
名称	断面	単位数量	長さ	数量	数量	適用
シー ル材	90x30tx1.2	3240mL	0.680m	2	4406mL	A1 地覆部
			0.690m	2	4471mL	A2 地覆部
係数1.2は作業ロスに対する割増				TOTAL	8877mL	—
ブ ライマー	30tx2面	0.06m <sup>2</sup>	0.680m	2	0.08m <sup>2</sup>	A1 地覆部
			0.690m	2	0.08m <sup>2</sup>	A2 地覆部
				TOTAL	0.16m <sup>2</sup>	—
バックアップ材	180x50t	9.0L	0.680m	2	12.2L	A1 地覆部
			0.690m	2	12.4L	A2 地覆部
幅を1/2に圧縮し挿入				TOTAL	24.6L	—

注1:シー ル材、ブ ライマー、バックアップ材は現場手配とする。

注2:バックアップ材は現場にて適宜調整のこと。

伸縮装置配置図

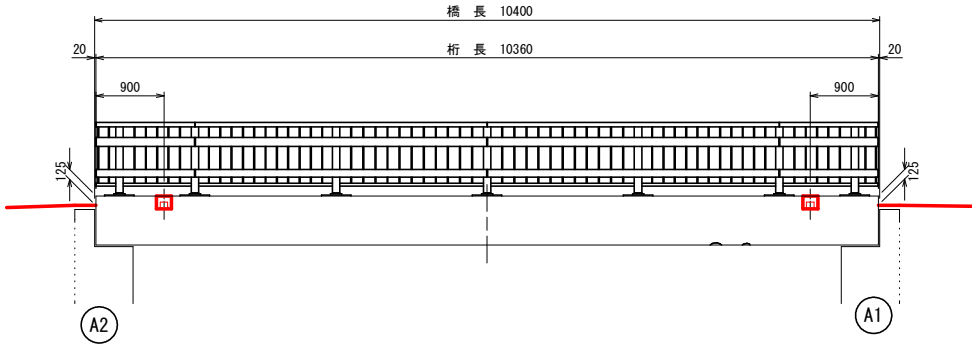
S=1:100



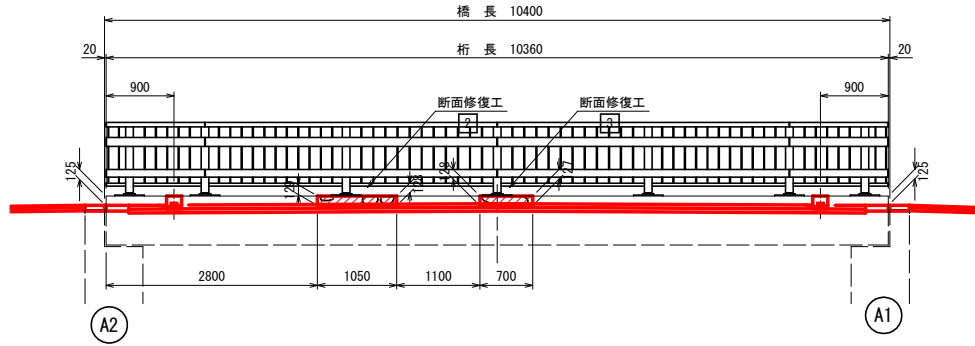
令和7年度 柏木町唐竹橋橋梁補修工事		
工事番号	第 号	
路線名 路 線 河 川	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)	
施行所 施 施	平川市大字 沖館 地内	
地覆補修図	縮尺 各図記入	
図面番号	葉 中	
平 川 市		
青 森 県		

## 柏木町唐竹橋 地覆補修図

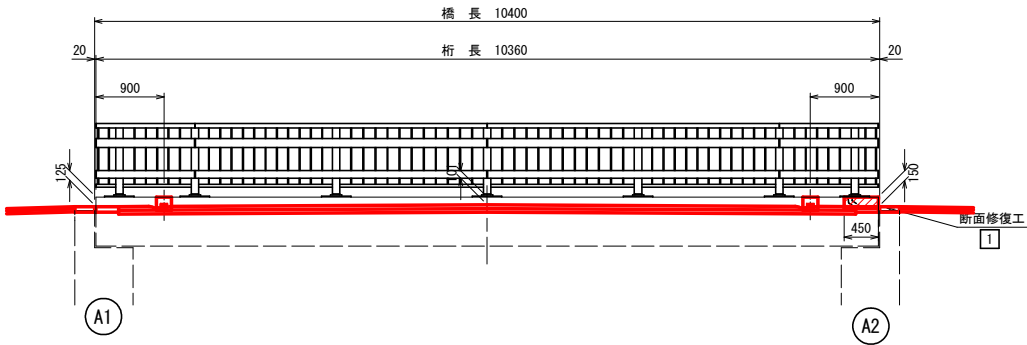
側面図(A-A) S=1:50



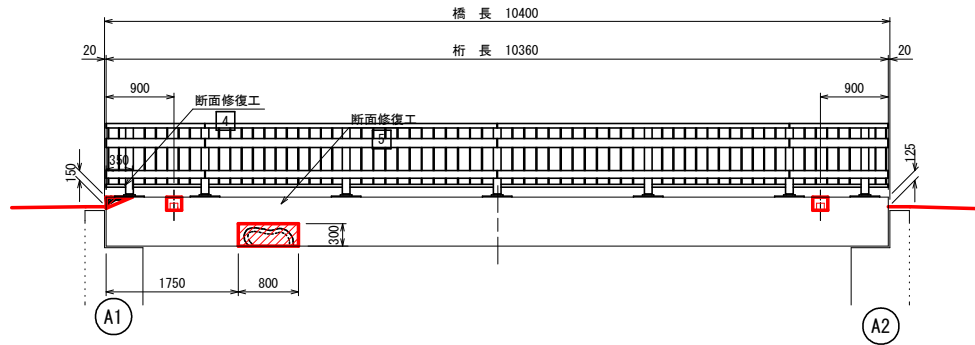
側面図(C-C) S=1:50



側面図(B-B) S=1:50



側面図(D-D) S=1:50

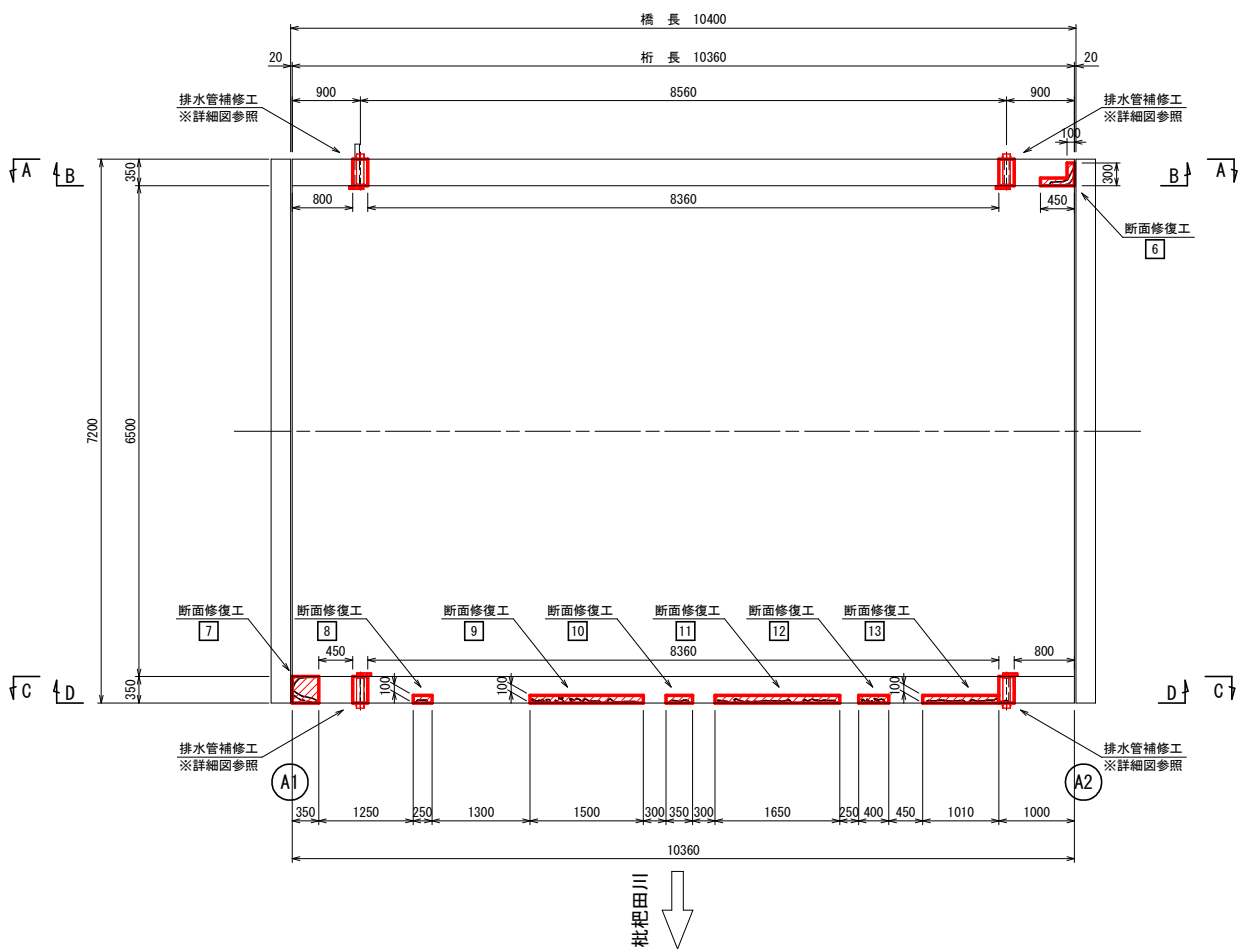


### 凡 例

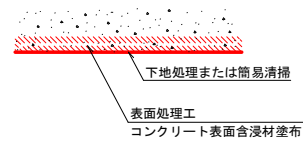
表 示	損傷の種類
	ひびわれ
	漏水・滞水
	漏水・遊離石灰
	錆 汁
	ジャンカ
	剥離・欠損
	鉄筋露出
	補修跡
	その他

※ひび割れ幅を明記していない箇所は0.2mm未満である。

平面図(橋面) S=1:50

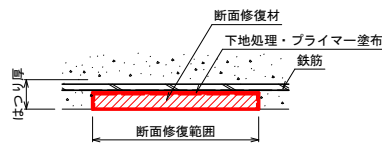


### 表面処理工



- 注記
- 含浸材塗布前に「下地処理」を十分に行い、付着している遊離石灰や草木、漏水跡等をすべて除去すること。
  - コンクリート表面含浸材は「高分子系含浸材」とする。
  - 下地処理後に幅0.2mm以上のひび割れなどの劣化部が確認できた場合は別途、補修工法を行う事。
  - 含浸材の塗布範囲は「地覆全体」とする。

### 断面修復工(左官工法)

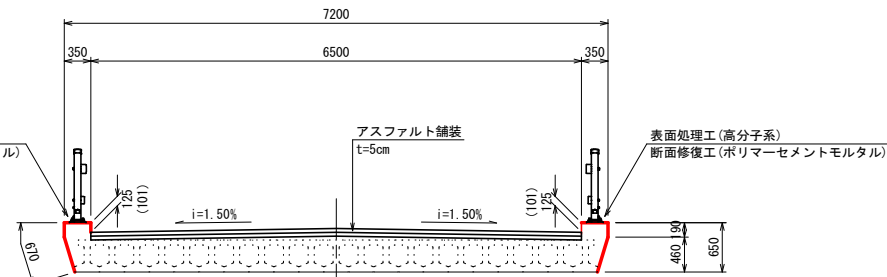


- 注記
- 劣化部コンクリートのはつりは、健全部に損傷を与えないよう、カット一目地を入れて施工する事。
  - 断面修復材は「ポリマーセメントモルタル」とする。
  - 鉄筋の発錆が確認できた場合は裏側まではつり、防錆処理を施す事。

### 補修工凡例

表 示	補 修 工 法
	断 面 修 復 工
	表 面 処 理 工

断 面 図 S=1:50



※地覆高はA1、A2側高とし、( )は中央部を示す。

### 地覆補修 数量表

断 面 修 復 工	
番 号	体 積
1	$0.45 \times 0.15 \times 0.03 = 0.002\text{m}^3$
2	$(0.129 + 0.128) / 2 \times 1.05 \times 0.03 = 0.004\text{m}^3$
3	$(0.128 + 0.127) / 2 \times 0.7 \times 0.03 = 0.003\text{m}^3$
4	$0.35 \times 0.15 \times 1/2 \times 0.03 = 0.001\text{m}^3$
5	$0.80 \times 0.30 \times 0.03 = 0.007\text{m}^3$
6	$0.65 \times 0.10 \times 0.03 = 0.002\text{m}^3$
7	$0.35 \times 0.35 \times 0.03 = 0.004\text{m}^3$
8	$0.25 \times 0.10 \times 0.03 = 0.001\text{m}^3$
9	$1.50 \times 0.10 \times 0.03 = 0.005\text{m}^3$
10	$0.35 \times 0.10 \times 0.03 = 0.001\text{m}^3$
11	$1.65 \times 0.10 \times 0.03 = 0.005\text{m}^3$
12	$0.40 \times 0.10 \times 0.03 = 0.001\text{m}^3$
13	$1.01 \times 0.10 \times 0.03 = 0.003\text{m}^3$
$\Sigma V = 0.039\text{m}^3$	

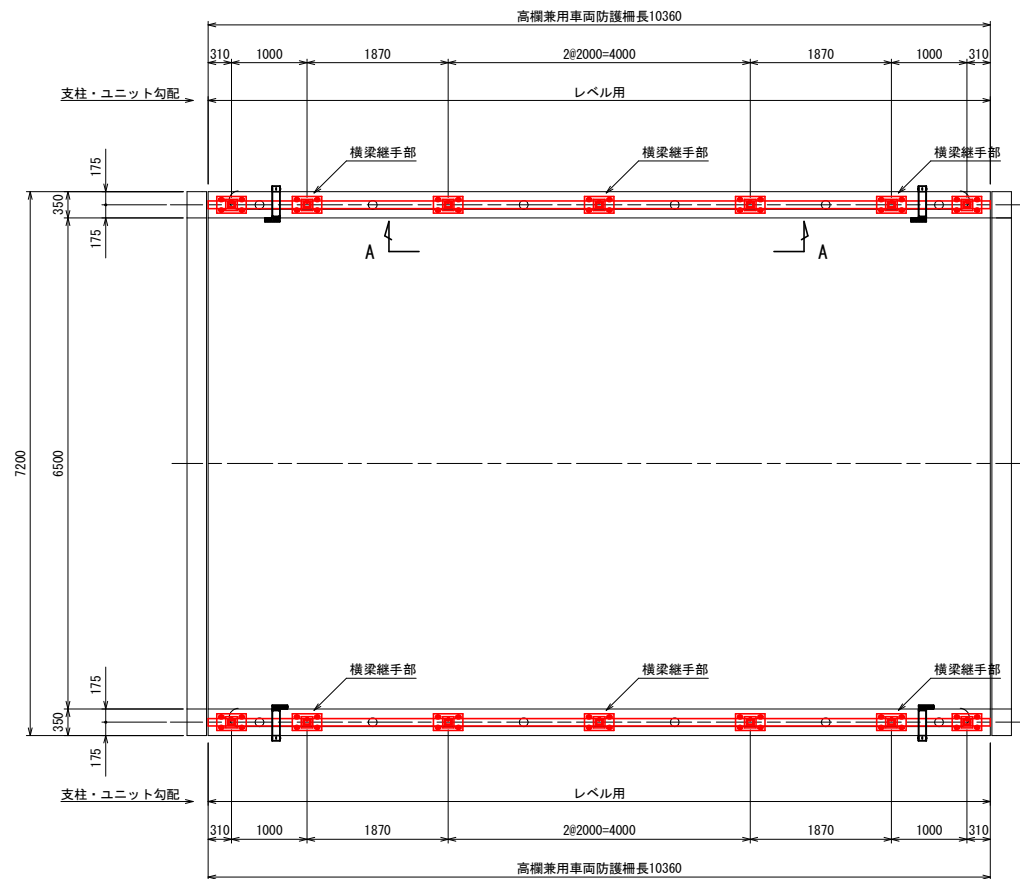
表 面 処 理 工	
番 号	面 積
側面(外側)	$[0.67 \times 10.36 - (0.1 \times 0.11) \times 2] \times 2 = 13.8\text{m}^2$
側面(内側)	$\{(0.125 + 0.101) / 2 \times 10.36\} \times 2 = 2.3\text{m}^2$
天端	$0.35 \times 10.36 \times 2 = 7.3\text{m}^2$
$\Sigma A = 23.4\text{m}^2$	

- 注記
- 施工の際は、現地計測により確認する事。

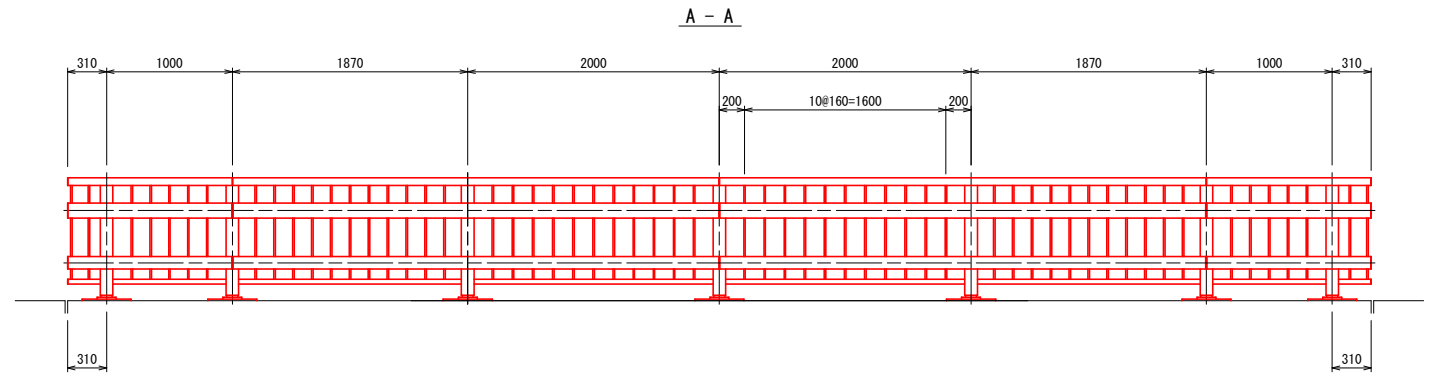
令和7年度	柏木町唐竹橋橋梁補修工事
工事番号	第 号
路線名	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)
施行所	平川市大字 沖館 地内
防護柵補修図	縮尺 各図記入
図面番号	業 中
平 川 市	
青 森 県	

## 柏木町唐竹橋 防護柵補修図

平面図 S=1:50

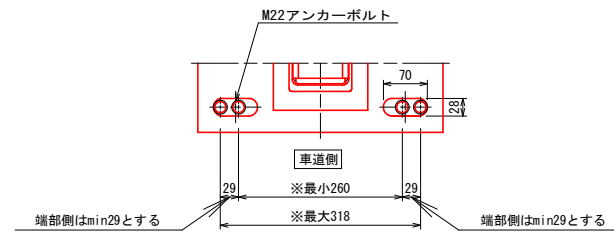


正面図 S=1:30

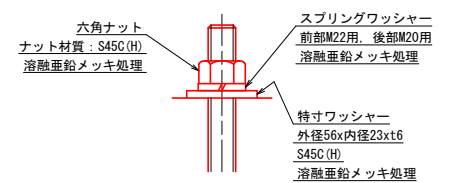


- 注記
- 記入寸法は支柱センター押さえとし、実長で示す。
  - 補修工事に当たり、寸法等は再度現地計測を行って確認する事。

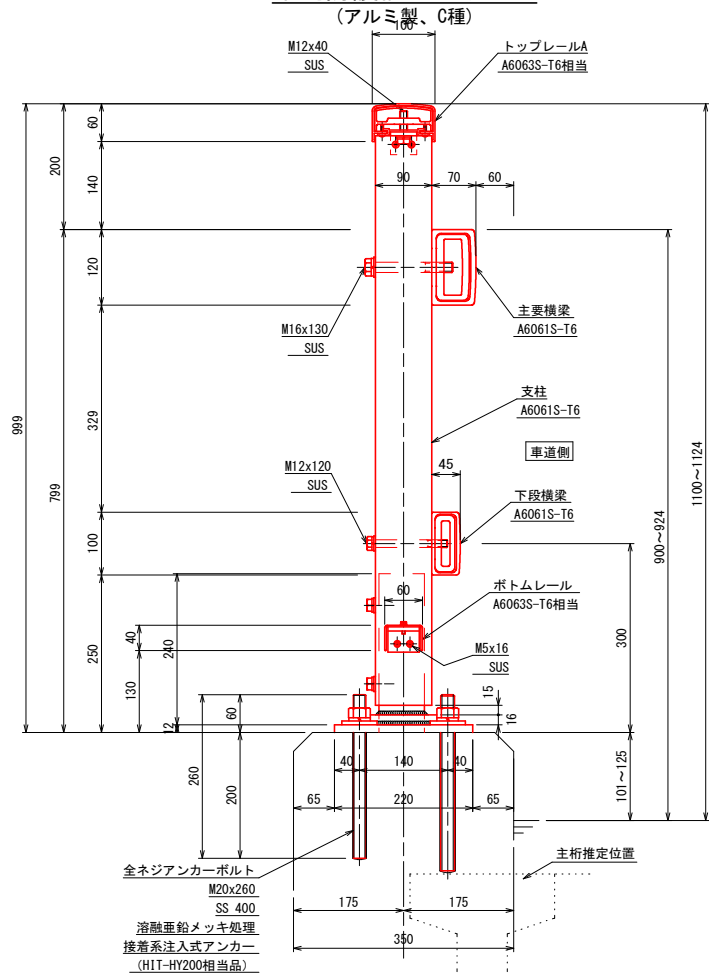
アンカーピッチ詳細図 S=1:6



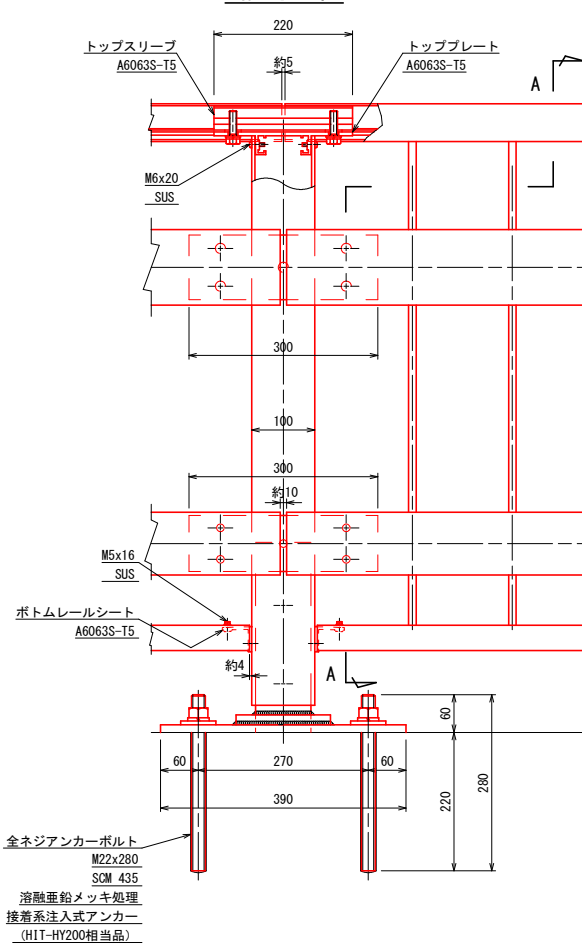
アンカーナット締め付け部 S=1:3



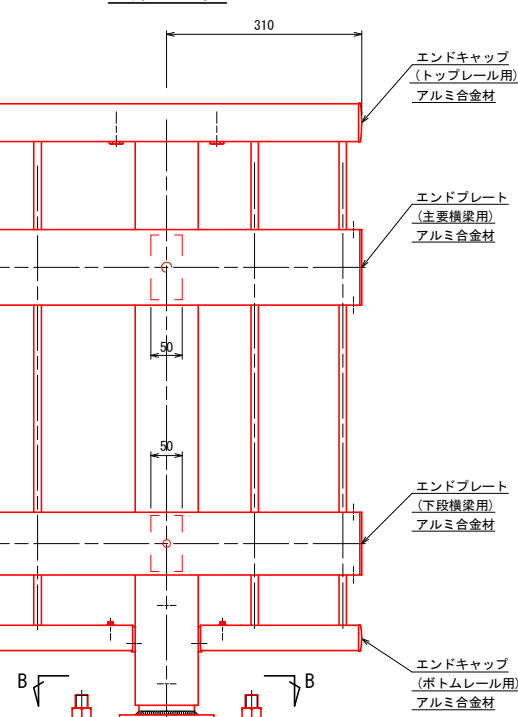
車両防護柵取付断面図 S=1:6



継手部

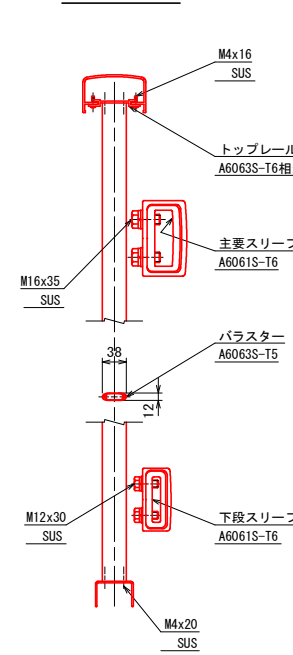


端部

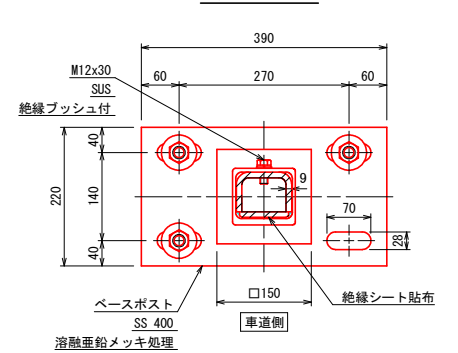


- 注記
- 本防護柵の設計・製作仕様は、(社)日本アルミニウム協会 土木製品開発委員会作成「アルミニウム合金製橋梁用防護柵設計要領」(平成30年6月)、「アルミニウム合金製橋梁用防護柵製作・施工要領」(平成27年3月)による。
  - 本防護柵の表面処理は、アルマイト(シルバー色)仕上げとする。
  - 強度区分の表記なきボルト類はA2-50以上とする。ただし、ビス類はA2とする。
  - ボルト・ビス類のSUS材は、塩害対策処理とする。
  - 絶縁ブッシュの色調は黒色とする。
  - アンカーピッチ制限あり。※の寸法は、318~260mmに納めて施工すること。
- ※コンクリート強度  $\sigma_{ck}=21\text{N/mm}^2$  以上

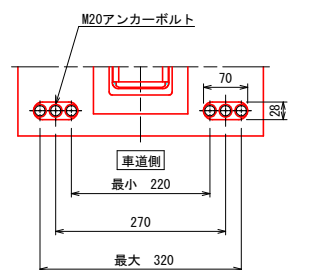
断面 B-B



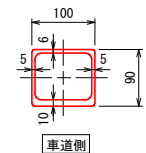
断面 B-B



アンカーピッチ詳細図 S=1:6



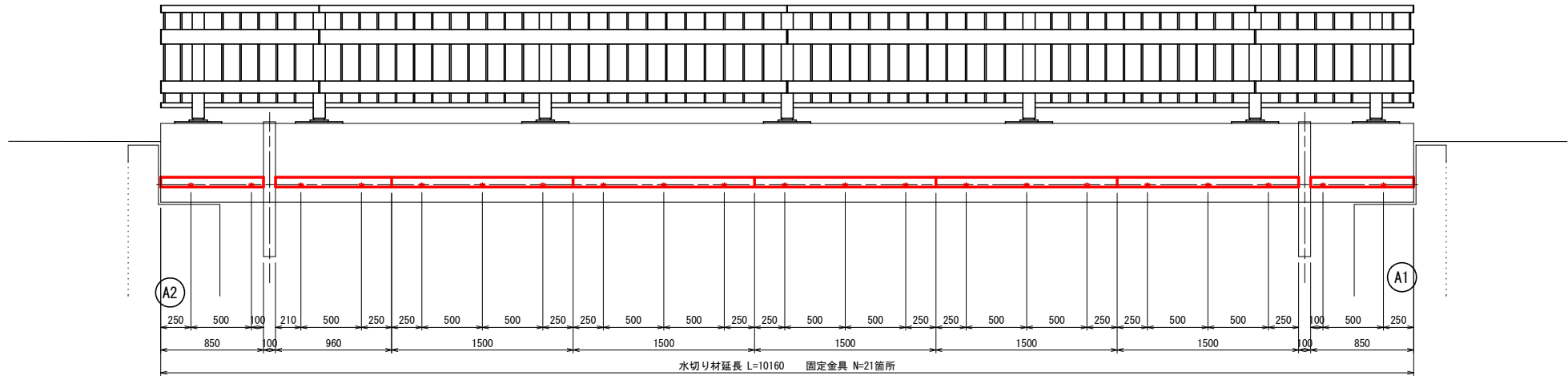
支柱断面図 S=1:6



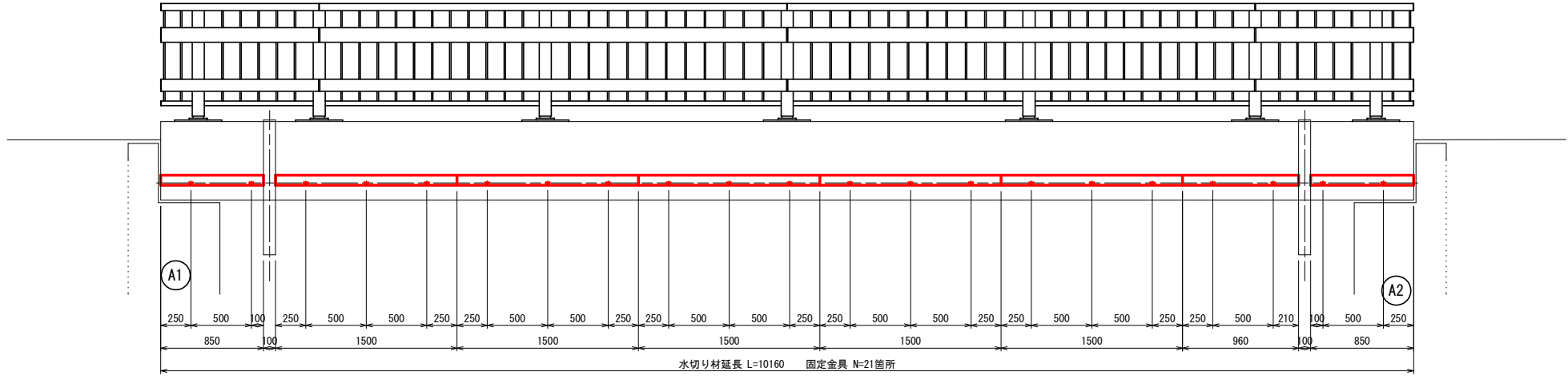
令和7年度 柏木町唐竹橋橋梁補修工事		
工事番号	第 号	
路線名 施 工 所	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)	
行 所	平川市大字 沖館 地内	
水切り設置工図	縮尺	各図記入
図面番号	葉 中	
平 川 市		
青 森 県		

## 柏木町唐竹橋 水切り設置工図

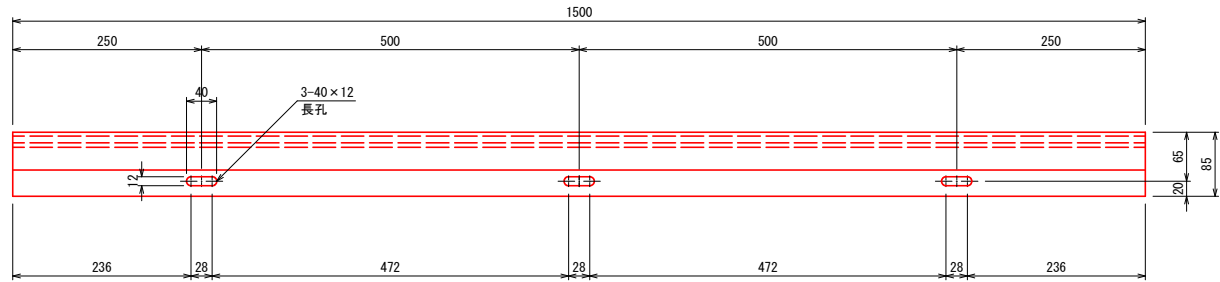
上流側(左側) S=1:25



下流側(右側) S=1:25



水切り板 正面図 S=1:5



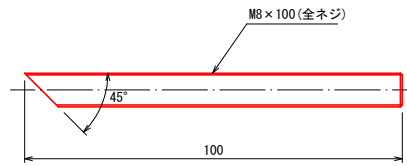
取付ボルト数量

製品寸法	
1500以下 1000を超える	3ヶ所
1000以下 500以上	2ヶ所
500未満は原則使用しない	

注記 : 端尺部の孔加工および長さ調整は、施工時に現地にて行うこと

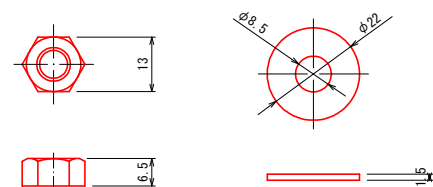
アンカーボルト(SUS) S=1:1

ボルト

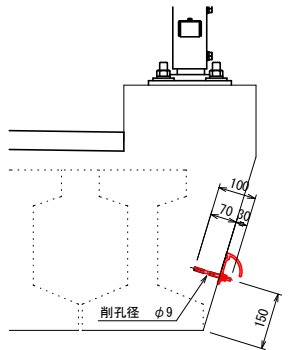


ナット

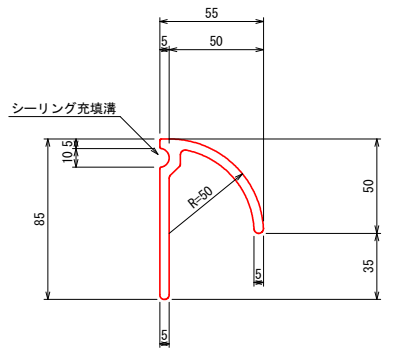
平座金



断面図 S=1:10



水切り板 断面図 S=1:2



水切り工 数量表

名称	寸法・規格	材質	計算	数量
水切り板	85×55×5×1500	FRP	10.16 + 10.16	20.3m
固定金具	アンカーボルト M8×100(B, 2N, 特W(φ22))	SUS	21 + 21	42箇所

注記: 1. シーリング充填溝にシーリング材を充填して施工すること  
2. 端部の斜め加工は、施工時に現地にて行うこと  
3. 端尺部の孔加工および長さ調整は、施工時に現地にて行うこと

## 柏木町唐竹橋 排水装置補修図

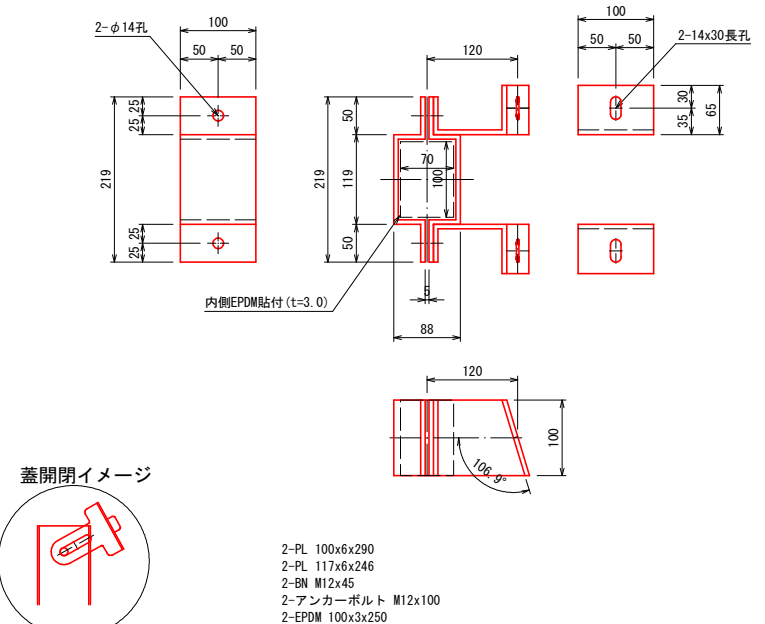
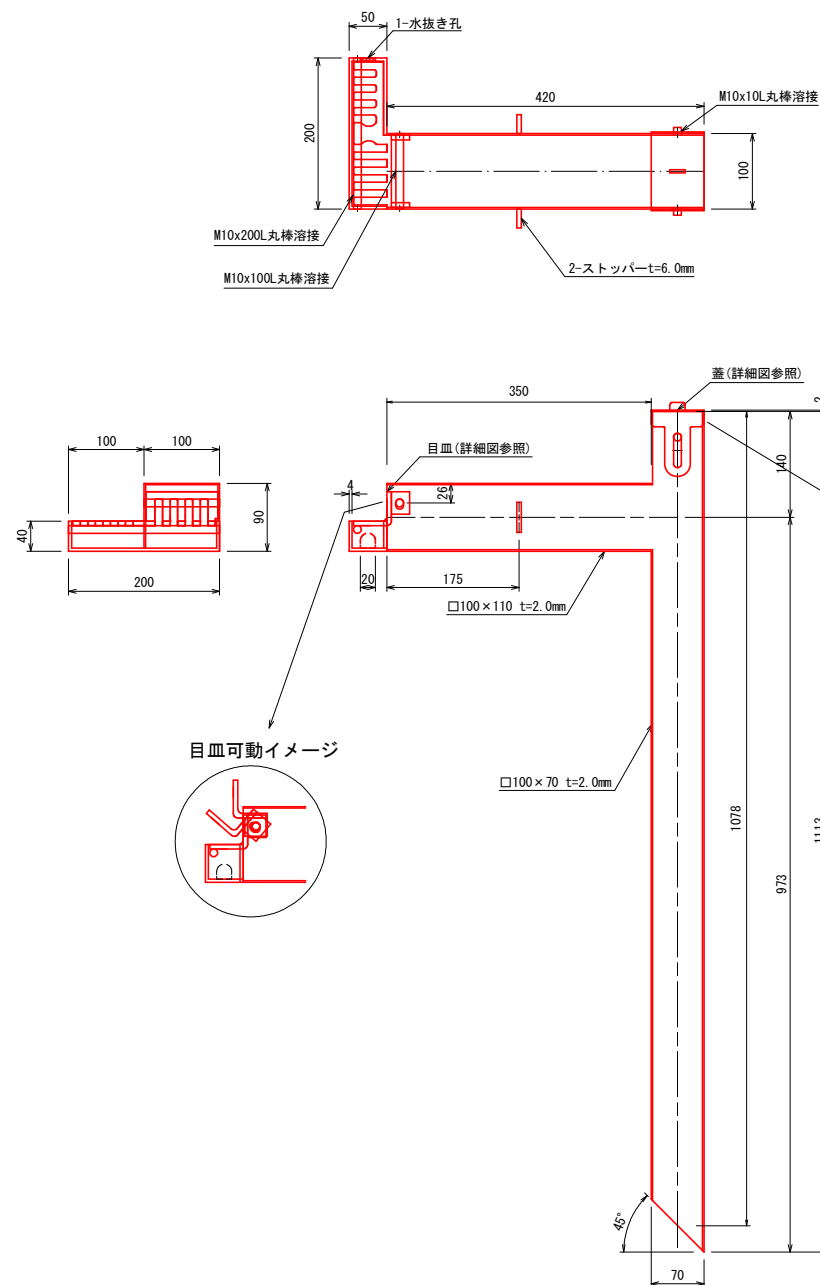
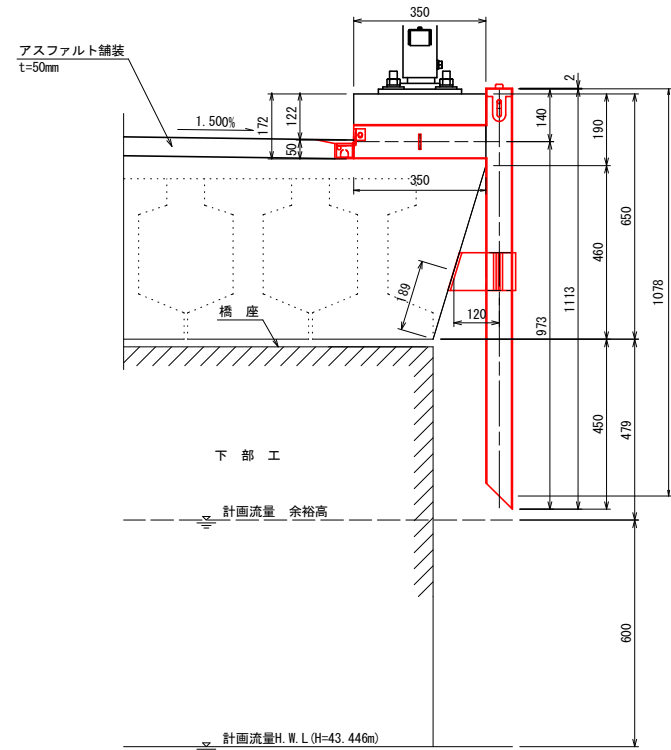
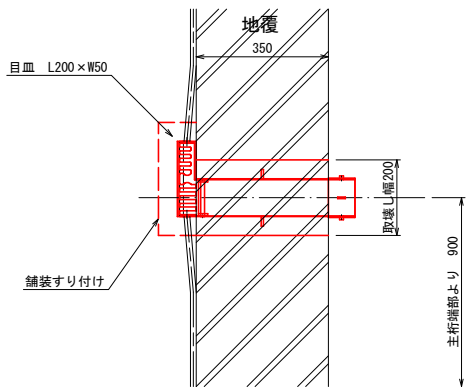
令和7年度 柏木町唐竹橋橋梁補修工事	
工事番号	第 号
路線名	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)
施行所	平川市大字 沖館 地内
排水装置補修図	縮尺 各図記入
図面番号	葉 中
平 川 市	
青 森 県	

排水管詳細図 S=1:5

取付金具詳細図 S=1:5

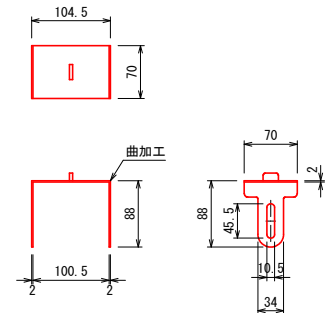
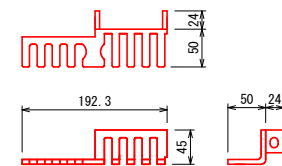
平面図 S=1:10

断面図 S=1:10

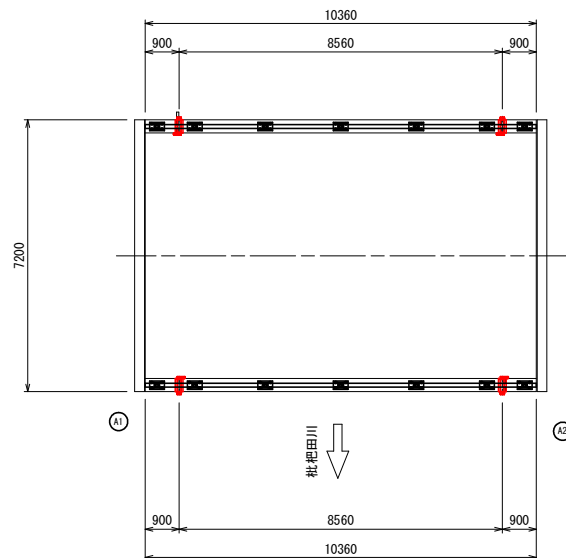


目皿詳細図 S=1:5

蓋詳細図 S=1:5



配置図 S=1:100



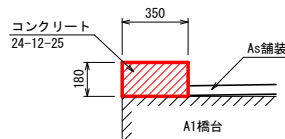
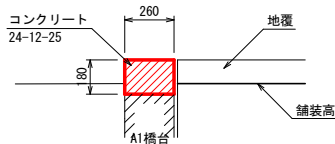
排水施設 数量表

名 称	仕様・規格	算 式	数 量	備 考
排 水 管	目皿付き, SUS304, L=1.113m		4基	
取 付 金 具	SUS304		4組	
地覆取壊し		$(0.35 \times 0.2 \times 0.172) \times 4$	0.05m3	
地覆復旧工	コンクリート (24-12-25)	$\{ (0.35 \times 0.2 \times 0.172) - (0.35 \times 0.1 \times 0.09) \} \times 4$	0.04m3	
〃	型 枠	$[(0.2 \times 0.172) \times 2 - (0.1 \times 0.09) \times 2] \times 4$	0.2m2	

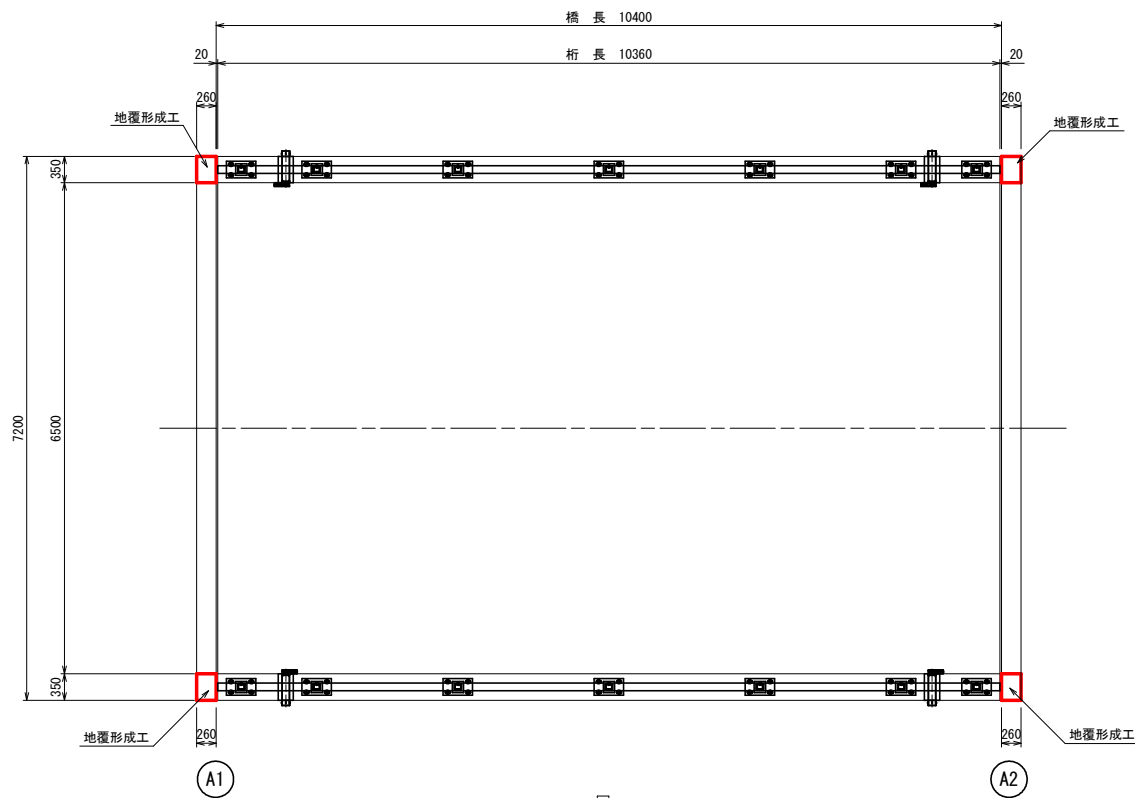
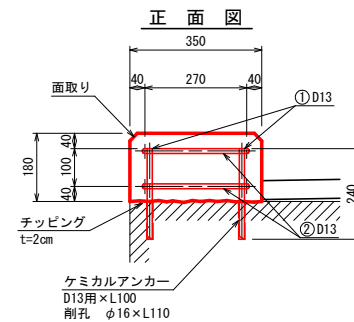
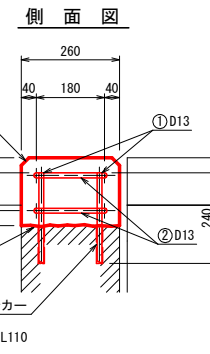
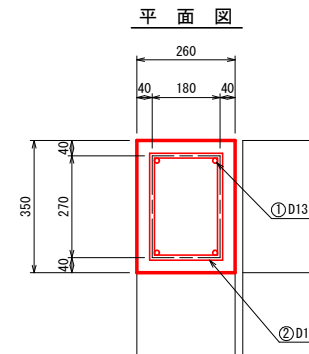
- 注) 1. 特記なき材質はすべてSUS304とする。  
2. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し耐食性向上の措置を講じる。  
3. 舗装は5cm程度で目皿にすり付けすること。  
4. 地覆鉄筋の切断に注意しコンクリート取壊しを実施し、鉄筋が支障となる場合は適宜設置位置を修正すること。  
5. 現地調査にて寸法確定後製作すること。

令和7年度 柏木町唐竹橋橋梁補修工事	
工事番号	第 号
路線名	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)
施行所	平川市大字 沖館 地内
地覆形成工図	縮尺 各図記入
図面番号	葉 中
平 川 市	
青 森 県	

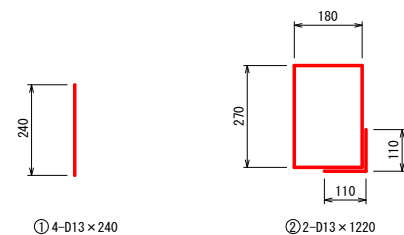
## 柏木町唐竹橋 地覆形成工図

正面 S=1:20  
(全箇所共通)側面 S=1:20  
(全箇所共通)

平面図 S=1:50

枇杷田川  
↓鉄筋加工詳細図 S=1:10  
(全箇所共通)

加工図 S=1:10



鉄筋重量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
①	D13	240	4	0.995	0.239	0.956	
②	"	1100	2	0.995	1.095	2.190	
1基当たり				D13 (SD345)	3.1	kg	
アンカー材				D13×100用	4	本	
4基当たり				D13 (SD345)	12.6	kg	
アンカー材				D13×100用	16	本	

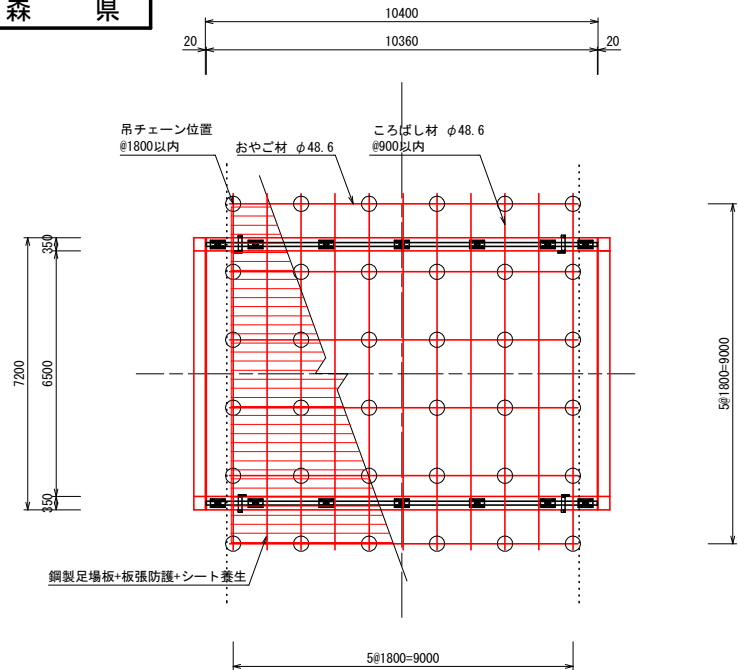
注記

1) 施工の際は、現地計測により確認する事。

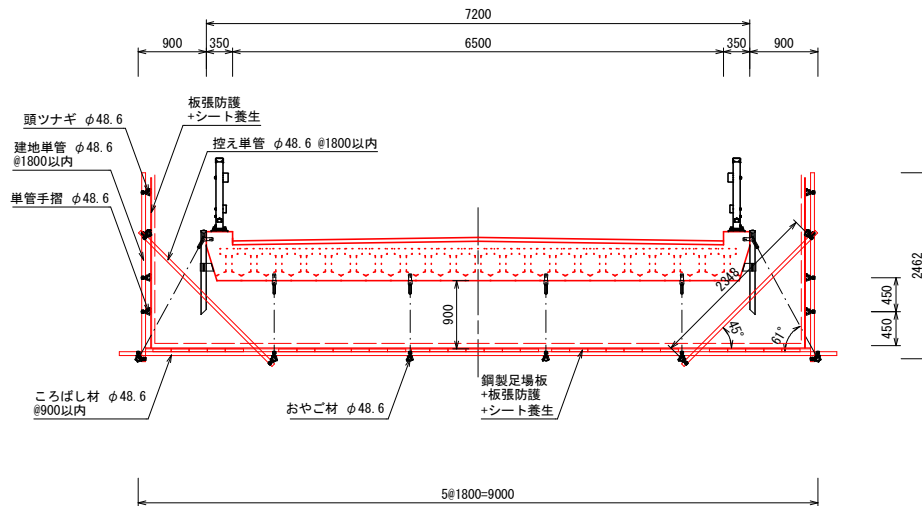


令和7年度 柏木町唐竹橋橋梁補修工事		
工事番号	第 号	
路線名	柏木町唐竹橋(柏木町唐竹線)	
施行所	平川市大字 沖館 地内	
仮設足場工(参考)図	縮尺	各図記入
図面番号	17	葉 中 17
平 川 市		
青 森 県		

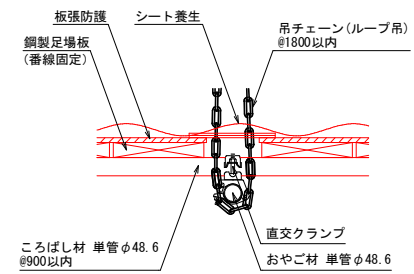
平面図 S=1:100



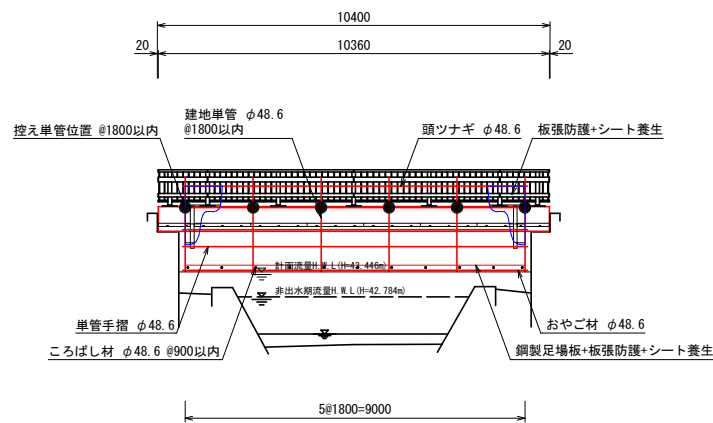
断面図 S=1:50



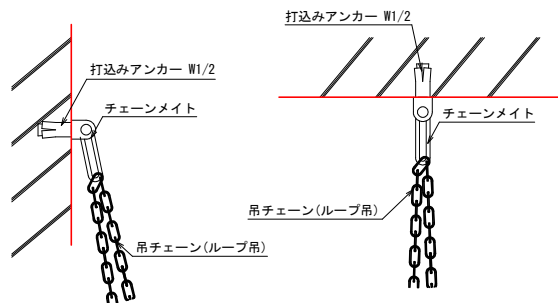
足場チェーン吊り部 詳細図 S=1:10



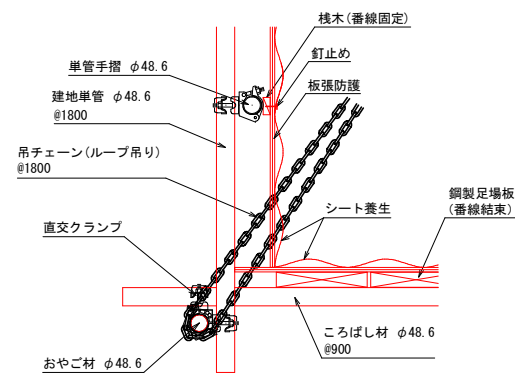
側面図 S=1:100



チェーン吊元 詳細図 S=1:10



吊足場端部 部詳細図 S=1:10



控え単管取付詳細図 S=1:10

